

ジャニーズファンのインフォーマル学習への  
意識とその学習成果の表れ  
—ジャニーズファンのファンコミュニティに着目して—

筑波大学  
図書館情報メディア研究科  
2021年03月  
潘瑜

# 目次

第1章 序論 .....	4
1.1 研究背景 .....	4
1.1.1 ジャニーズについて .....	4
1.1.2 ジャニーズアイドルについて .....	4
1.1.3 数多くの日中ジャニーズファン .....	5
1.1.4 多様なジャニーズファン活動 .....	5
1.2 先行研究 .....	6
1.2.1 ジャニーズファン・ファンコミュニティについて .....	6
1.2.2 ファン意識や活動とインフォーマル学習について .....	6
1.3 研究目的 .....	7
1.4 用語定義 .....	7
1.4.1 ジャニーズファンの「同担」「コンビ担」「CP担」 .....	7
1.4.2 ファンコミュニティ .....	8
1.4.3 二次創作 .....	8
1.4.4 インフォーマル学習 .....	8
第2章 調査概要 .....	10
2.1 調査方法 .....	10
2.2 調査内容と項目 .....	10
2.2.1 ジャニーズグループやタレントについて .....	10
2.2.2 ジャニーズファンコミュニティ・ファン活動につて .....	11
2.2.3 同人文化・CP文化への態度について .....	11
2.2.4 調査対象者のライフストーリーについて .....	12
2.3 調査対象者 .....	12
2.4 研究倫理 .....	12
第3章 調査結果 .....	13
3.1 調査対象者概要 .....	13
3.2 調査対象者の回答と分析 .....	14
3.2.1 Aさん .....	14
3.2.2 Bさん .....	19

3.2.3 C さん.....	24
3.2.4 D さん.....	29
3.2.5 E さん.....	36
3.2.6 F さん.....	42
3.2.7 G さん.....	49
3.2.8 H さん.....	53
<b>第4章 考察.....</b>	<b>56</b>
4.1 ジャニーズアイドルとインフォーマル学習の関連.....	56
4.1.1 ジャニーズアイドルの様々な側面を注目.....	56
4.1.2 アイドルの成長と絆に注目している.....	56
4.2 ファンコミュニティとインフォーマル学習.....	57
4.2.1 日中ジャニーズファンが同担に対する態度の差.....	57
4.2.2 セグメント化しない中国ジャニーズファンコミュニティ.....	59
4.3 多様なインフォーマル学習成果.....	59
4.3.1 中国ファンコミュニティにおける3種類インフォーマル学習.....	59
4.3.2 社会文化の違いによるインフォーマル学習の逆機能.....	60
4.3.3 ファンコミュニティからの離脱に伴うインフォーマル学習の中止.....	60
<b>第5章 結論.....</b>	<b>61</b>
5.1 結論.....	61
5.2 今後の課題.....	61
謝辞.....	63
引用・参考文献一覧.....	64

## 図表の目次

表 1 調査対象者一覧.....	13
図 1 同担拒否に関するマトリクス.....	57

## 第1章 序論

### 1.1 研究背景

近年、日本のアイドルは中国の若者の中で人気がある。特にジャニーズという日本の芸能事務所に所属しているアイドルのファンの数が多い。中国のジャニーズファンたちは日本ファンと同じようにグッズ消費、コンサート参加、二次創作<sup>1</sup>など応援活動を展開し、ファンの仲間同士でコミュニティも形成されている。特に中国のファンに対しては、情報獲得・共有、日本語学習など、学習行為に至ると思えるような活動を行う人が見られる。

#### 1.1.1 ジャニーズについて

ジャニーズはジャニーズ事務所の略称である。戦後日本の有名な芸能プロダクション事務所として、ジャニーズアイドルは日本にとって国民的な存在であり、長期にわたって日本アイドル文化を代表する一つである。ジャニーズは1960年の創立以来、元祖な人気アイドルグループ「少年隊」を皮切りにして、解散した「SMAP」や2020年に活動を終える「嵐」など次々に大人気となる国民的アイドルグループを組み立ててきた。2020年時点で、「嵐」を含む、「TOKIO」、「関ジャニ∞」、「Hey!Say!JUMP」、「Sexy Zone」、「King & Prince」など17組のアイドルグループだけではなく、近藤真彦、生田斗真など12人も個人アイドルとして活動をしている<sup>2</sup>。

#### 1.1.2 ジャニーズアイドルについて

ジャニーズアイドルは、他のアイドルと比べて、いくつかの独自性がある。まず、ジャニーズ事務所のジャニーズ Jr.<sup>3</sup>というのは海外に見られるような、すでに完成してプロとして活動しているアイドルと比べて、日本しか見られない独自のものであり、ジャニーズアイドルの「研修生」のような存在である。アイドルになりたい若い子たちがジャニーズのオーディションに合格して、ジャニーズ事務所に入所すると、レッスンが始まり、ジャニーズ Jr.として他のグループのバックダンサーを務めたりするようになり、ジャニーズ Jr.番組を持つこともある<sup>4</sup>。このように、未完成な若い子の育成教育を進行させる事務所として、教育

---

<sup>1</sup> 二次創作: ジャニーズアイドルを中心にファンによる非公式作品(漫画、小説、動画など)

<sup>2</sup> ジャニーズ事務所公式サイト. 2021年1月6日更新.

<https://www.johnnys-net.jp/page?id=artistAll>, (参照 2021-01-06)

<sup>3</sup> ジャニーズジュニアと言う

<sup>4</sup> 村上 麗奈. 【音楽】総称としてのジャニーズと男女アイドルの違い【考察】.

[https://note.com/rin\\_dorfer\\_music/n/nb31b8b7245fd](https://note.com/rin_dorfer_music/n/nb31b8b7245fd). (参照 2020-12-26)

とのつながりが強いと評価されている。

それ以外、ジャニーズアイドルはこれまで見られた伝統的なアイドル活動以外の、他の活動も行っていることも特徴である。例えば、TOKIO が「ザ!鉄腕!DASH!!」<sup>5</sup>という番組の中で農業をやっていたり、関ジャニ∞が「関ジャム 完全燃 SHOW」<sup>6</sup>という番組でプロなBANDをやっていたり、嵐が「NHK 紅白歌合戦」<sup>7</sup>の司会を務めていたり、NEWS の加藤シゲアキが小説を書いていたりする。それらを見ると、ジャニーズアイドルは他のアイドルより、様々な活動を行っているので、多くの分野について学習できる機会が他のアイドルと比べて非常に多いと思われる。

### 1.1.3 数多くの日中ジャニーズファン

ジャニーズファンはジャニーズという日本芸能事務所に所属しているアイドルのファンのことである。情報メディアサイトのノンタメ<sup>8</sup>によれば、2020年7月までに、嵐の日本ファンクラブ会員数はすでに298万人を達成した。ジャニーズ Jr のファンクラブ会員数も関ジャニ∞を超えて、第二位になった。

2019年から、木村拓哉を皮切りにして、嵐やSnow Man、ジャニーズアイドルの公式ウェイボーアカウント<sup>9</sup>が次々に設立された。アカウントのフォロワー数も増加し続け、2020年12月まで、三つアカウントの総フォロワー数が400万人に達成した。これらを見ると、日本だけではなく、中国でもジャニーズファンが数多く存在している。

### 1.1.4 多様なジャニーズファン活動

ジャニーズアイドルが日本市場向けをメインとして活動しているにもかかわらず、中国のファンたちは応援活動を展開し、日本人のファンと同じようにファンの仲間同士でコミュニティも形成されている。しかし、中国のジャニーズファンのジャニーズアイドル関連情報の入手ルートについては、日本のマスメディアを視聴することとアイドルを「オッカケ」することが困難な状況であるため、アイドル関連情報を主にインターネットを通じて入手している。

---

<sup>5</sup> 日本テレビ系列で1998年4月12日から放送されているバラエティ番組

<sup>6</sup> テレビ朝日系列で2015年5月10日から放送されている音楽バラエティ番組

<sup>7</sup> 日本放送協会（NHK）が1951年から毎年大晦日に放送している男女対抗形式の大型音楽番組・年末音楽特別番組

<sup>8</sup> 【ジャニーズ】ファンクラブ会員数ランキング 2020年7月版。  
<http://nonta55.com/2020/07/19/jrfer20207/>, (参照 2020-12-26)

<sup>9</sup> 新浪微博：木村拓哉，嵐，Snow Man  
[https://s.weibo.com/weibo?q=arashi&wvr=6&b=1&sudaref=weibo.com&display=0&retcode=6102&Refer=SWeibo\\_box](https://s.weibo.com/weibo?q=arashi&wvr=6&b=1&sudaref=weibo.com&display=0&retcode=6102&Refer=SWeibo_box), (参照 2020-12-26)

ファンコミュニティによって、日中のファン活動の形式も多様になっている。普遍的に認識されたコンサート参加、グッズ消費、アイドルに関する記念日祝い<sup>10</sup>が挙げられるだけでなく、動画サイトで映像を見たり、SNS でファン同士と交流したり、動画編集やイラストなどの二次創作をしたりすることも増えている。特に、二次創作はファンにとって、非常に重要なファン活動の一つとして、小説、漫画だけではなく、近年、ソーシャルメディアの普及で、アイドル映像の再加工、再編集もファンの中で流行っている。さらに、中国のジャニーズファンがジャニーズを追っかける際は、自発的に日本語を勉強していることもある。

## 1.2 先行研究

### 1.2.1 ジャニーズファン・ファンコミュニティについて

ジャニーズファンやファンコミュニティに関する研究は教育・学習の視点からの分析が少ない。臺ら (2016) <sup>11</sup>は日本におけるファン文化・ファン行動に関する研究を整理して、「ファンダム」「ファン&アイドル」「ファン心理」「ファンサイト」「ファン文化」「ファン行動」という6つのキーワードで分類した。その中で、ジャニーズに関する研究において一番焦点が当てられていたのは「ファン&アイドル」である。しかし、ジャニーズファンコミュニティやファン活動の中にも学習行為に相当することが存在する。この部分について研究する必要があると思われる。

また、魏ら (2014) <sup>12</sup>は日本のジャニーズファンやファンコミュニティの特徴をまとめて、一番大きな特徴は「同担拒否」という現象であり、「担当制」によって日本のジャニーズファンのコミュニティが維持・強化されていると指摘した。その他の論考としては、中国最大のジャニーズ系 BBS を通じて、アンケート調査を行った結果、中国語圏のジャニーズファンは20代が圧倒的に多く、その中に大学生・大学院生が多数存在していることが判明した。そして、オンライン匿名コミュニティの状況を見れば、中国語圏のジャニーズファンは「同担拒否」と全く逆の「同担受容」の傾向を見せていると述べている。

### 1.2.2 ファン意識や活動とインフォーマル学習について

インフォーマル学習について、山内 (2013) <sup>13</sup>によればインフォーマル学習には、「生涯を

---

<sup>10</sup> アイドルの誕生日やデビュー〇〇周年など、ファンにとって記念意味がある時日

<sup>11</sup> 臺 純子, 幸田 麻里子, 崔 錦珍. 日本におけるファン文化・ファン行動研究の動向: ファンツーリズムの確立に向けて. 立教大学観光学部紀要. 2016, no. 18, pp. 165-173. (参照 2020-12-26)

<sup>12</sup> 魏 然, 陸 一菁. 中国語圏ジャニーズファンの活動及びファンコミュニティの特性. 神戸松蔭女子学院大学研究紀要. 2014, 人間科学部篇, no. 3, pp. 63-79. (参照 2020-12-26)

<sup>13</sup> 山内 祐平. 教育工学とインフォーマル学習. 日本教育工学論文誌. 2013, vol. 37,

通じた学習」、「生涯に渡る学習」、「生涯の深い学習」という三種類があるとまとめている。そして、外界との物理的相互作用・コミュニケーション・言語習得などに関わる学習は「生涯を通じた学習」に相当する。また新しい環境に適応する経験からスキルの獲得や態度変容が起きる学習は「生涯に渡る学習」に該当し、人生の方向に影響を与える信念や価値観イデオロギーなど獲得する学習は「生涯の深い学習」に当たると述べている。

インフォーマル学習を、従来の学校での組織的、体系的な学習とは異なる、親や友人との他愛もない会話や、恋愛、遊び、仕事、趣味などを通して、自然と学んでいく学習方法と定義し、また「国の規制」がないことをポイントとして指摘した。その研究では、どの国でもどの環境でもインフォーマル学習が存在していると考察している。

この山内の研究を踏まえて、登坂（2019）<sup>14</sup>はインフォーマル学習の概念を整理し、ファンコミュニティにも該当すると指摘した。他方、登坂は中国の日本型女子アイドル養成団体のファンに参与観察を行っており、ファン活動の詳細な検証を通じて、そこに「相当高度な社会性を見出す」ことができたと述べている。

### 1.3 研究目的

先行研究では、インフォーマル学習の概念がファンコミュニティにも該当すると指摘した。しかし、ファンコミュニティで具体的にどのようなインフォーマル学習がなされているかは調査されていない。

また、中国のジャニーズファンに関する研究はファン全体が中心で、個別に掘り下げて調査されてはいない。中国のファンコミュニティが同担拒否しない結果として、ファン仲間に尽くしたい気持ちが強まるため、インフォーマル学習が促進される可能性が想定されるが、その点の調査もなされていない。

したがって、本研究はジャニーズファンのライフストーリーに基づいて、なぜコミュニティに参加したのか、ファン活動はインフォーマル学習に相当するものとして捉えているかを明らかにすることを目的とする。

### 1.4 用語定義

#### 1.4.1 ジャニーズファンの「同担」「コンビ担」「CP担」

---

no. 3, pp. 187-195. (参照 2020-12-26)

<sup>14</sup> 登坂学. 日本型アイドル養成団体の受容・現地化とファンコミュニティのインフォーマル学習的意義について: 上海における参与観察を中心に. 九州保健福祉大学研究紀要, 2019, vol. 20, pp. 45-56. (参照 2020-12-26)

ジャニーズファンの間における「担当」は「ファンである」や「自分の一番好きなアイドル」ということを意味する。ジャニーズファンの中で好きな対象によって、いくつかの担当がある。そこで、本研究において用いられる「同担」「コンビ担」「CP 担」を説明する。

同担とは、自分と担当が同じファンのことである。ファンの中で「同担拒否」という行為があるが、同担拒否とは応援しているメンバーが同じの他のファンと距離を置く、親密な関係にはなれないということの意味する。その反対に同担受容も存在する。コンビ担とは、担当が2人コンビのファンのことである。しかし、コンビ担の中に、コンビの間に恋愛関係が存在すると認識して応援するCP 担も存在する。

「コンビ」と「CP」をより具体的に説明すると、コンビとは二人からなるグループ・組み合わせを指す。コンビネーションの略である。二者の間に恋愛感情や性欲が絡む場合は、コンビではなくカップリングとして扱われることになる<sup>15</sup>。この「カップリング」は「CP」という略称で表現することが多い、同人創作活動においてキャラクター同士やアイドルグループにおいてメンバー同士の恋愛関係を強調する語である。

#### 1.4.2 ファンコミュニティ

ファンコミュニティはファン活動を実践する上で、ファン同士で形成しているコミュニティである。本研究において、ファンコミュニティはFacebook グループやメッセージアプリ、掲示板などの仕組みを使い、相互に交流できるコミュニティと現実の場所（カフェ、カラオケ、居酒屋など）で相互に交流できるコミュニティ、これら二つのコミュニティを指す。

#### 1.4.3 二次創作

本研究において、二次創作とは原作者（もしくは主権利者）が一切関与していない非公式のファンによる作品を指す（小説、漫画、イラスト、動画など）。中には二次創作からさらに創作が進み、三次創作、四次創作…と続く場合もあるが一般的な言葉ではない。

#### 1.4.4 インフォーマル学習

本研究において、インフォーマル学習とは学校外の学習機会を利用して無意図的な学習行為を指す。渋谷（2006）<sup>16</sup>は「インフォーマル学習とはあらゆる人々が日常的経験や環境

---

<sup>15</sup> コンビ（こんび）とは【ピクシブ百科事典】 - pixiv  
<https://dic.pixiv.net/a/コンビ>, (参照 2020-12-28)

<sup>16</sup> 渋谷 英章. 生涯学習研究 e 事典.  
<http://ejiten.javea.or.jp/content7ce6.html?c=TkRZeE1ERXk%3D>, (参照 2020-12-28)

との触れ合いから、知識、技術、態度、識見を獲得し蓄積する、生涯にわたる過程であり、組織的、体系的教育ではなく、習俗的、無意図的な教育機能である。家庭、職場、遊びの場で学ぶ、家族や友人の手本や態度から学ぶ、ラジオの聴取、映画・テレビの聴取を通じて学ぶなどがあげられる」と述べている。

## 第2章 調査概要

### 2.1 調査方法

本研究は、個別の調査対象者に掘り下げて調査できる半構造化インタビューによる質的調査の方法を採用した。そして、日中のジャニーズファンがコミュニティに参加した理由や、ファン活動がインフォーマル学習に相当するものとして捉えているかを明らかにすることを目的とする。これらの回答には一定の形が存在せず、個々人によって異なる考え方もつことが予想される。そのため、調査協力者の考えを丁寧に聞くことのできる質的調査を採用した。

インタビューは、事前に質問項目の枠をおおまかに設定しつつ、回答者の答えに合わせて臨機応変に質問内容を調整、変化させていく半構造化インタビューを採用して、一人に対して2時間内のインタビューを1~2回進行した。調査は今般の新型コロナウイルスの問題が続いていたので、Zoom や Skype 等を用いつつ、リアルタイムのオンライン方式で行った。なお、同一調査対象者への2回目以降の調査については、場合によってメール等で行った場合もある。

### 2.2 調査内容と項目

本調査では、調査対象者に対するインタビューの質問項目は主に、(1) ジャニーズグループやタレントについて、(2) ジャニーズファンコミュニティ・ファン活動につて (3) 調査対象者が同人文化への態度 (4) 調査対象者のライフストーリーについての、4つの部分である。

#### 2.2.1 ジャニーズグループやタレントについて

調査対象者自身のジャニーズファン歴や担当などの基礎情報を聞き取った上で、ジャニーズアイドルが好きになったきっかけや好みのアイドルの優れているところを、質問した。また、ジャニーズアイドルの情報を得る方式やジャニーズの不祥事について語ってもらい、ジャニーズアイドルに対する態度や意識などを全体的に把握して、ジャニーズアイドルに惹きつけられたのは何かを探った。

#### 質問例：

- ・好きなジャニーズは誰か（個人、グループ）
- ・好きになった理由・きっかけは何か

- ・ 年下と年上のジャニーズに対する推し変<sup>17</sup>があるか
- ・ ジャニーズの不祥事についてどう思うのか

## 2.2.2 ジャニーズファンコミュニティ・ファン活動につて

日中のジャニーズファンが「同担拒否」に対する態度や意識などの差を明らかにするため、調査対象者がファン同士との交流方式、ファンコミュニティの性質（オンライン・オフライン）・規模・参加経緯などを質問して、ファン仲間に対する気持ちを詳細に訊いた。

また、調査対象者がファンコミュニティにおけるファン活動から、何を学んでいるかという点に着目した。そして、二次創作や応援方式などより具体的なファン活動に取り組む理由、動機も聞き取った上で、ファン活動にかかわるインフォーマル学習意識を尋ねた。

### 質問例：

- ・ 「同担拒否」についてどう思うか
- ・ 「同担拒否」をするか、なぜか
- ・ ファン同士のうちどこまでを敵ではないとみなすか、どこまでを身内と思うか
- ・ ファンコミュニティでリーダーとフォロワー、どちらになりたいか
- ・ どういう方式で応援するか
- ・ ファンの二次創作を見たことがあるか、自分で創作するか
- ・ ファン活動を通じて自分が何か勉強できたと思ったことがあるか

## 2.2.3 同人文化・CP<sup>18</sup>文化への態度について

ジャニーズファンの中で「コンビ担」や「CP 担」としてのファンが存在する。ジャニーズのコンビやCPが好きになって、LGBT への受容度が変化する可能性がある。調査対象者が好きなジャニーズコンビ・CPを応援した理由、同人文化についての態度を聞き取って、LGBT への意識にも判明した。

### 質問例：

- ・ 好きなアイドルコンビ・CPがあるか
- ・ 好きになった理由はなぜか
- ・ 逆CP/他のCPについてどう思うのか
- ・ 同人文化・CP文化についてどう思うのか
- ・ LGBTに対してどう思うのか

<sup>17</sup> アイドルファンの中で、今まで応援していた人物を他のメンバーに変える現象

<sup>18</sup> 「カップリング」の略称であり、同人創作活動においてキャラクター同士の恋愛関係を強調する語

## 2.2.4 調査対象者のライフストーリーについて

ジャニーズファンのインフォーマル学習意識の形成が自分自身の生活経験と繋がりがあ  
る可能性があると考えられる。そのことより、調査対象者の恋愛経験、学校教育、家庭教育  
などのライフストーリーを収集した。また、調査対象者の発言に前述の内容と関連するもの  
があった場合は、それを深く掘り下げて聞き取った。

### 質問例：

- ・ アイドルに恋愛感情を持っているか
- ・ 自分の恋愛経験についてどう思うか
- ・ ジャニーズを好きなことに対する周囲の評価は、高校時代はどうか、大学時代はどうか
- ・ 「ジャニオタ」のカミングアウトをするか
- ・ 家庭でのお小遣いはどれくらいもらうか
- ・ ご両親の感情は自分にとって良い例か悪い例か

## 2.3 調査対象者

本研究で、調査対象者は日中の現役ジャニーズファンと元ジャニーズファンを選定し  
た。調査対象者の性別、年齢は特に問わずに、アイドルファンの特質から考えて、20代の  
女性に調査を行うこととした。

また、スノーボールサンプリング法によって調査対象者を集めた。

## 2.4 研究倫理

本研究の調査は、筑波大学図書館情報メディア系研究倫理審査委員会に対し、研究内容の  
倫理審査を申請し、承認を得て行った。申請の際には、調査協力者に配布する本研究の協力  
依頼について書かれた同意書に関しても同時に申請し、承認後、調査協力者に配布してい  
る。

インタビューの依頼時に同意書を二部送付し、電話等を用いて口頭で説明の上、インタ  
ビュー実施前に同意の意思を確認する。その上でアポイントメントを確認し、調査当日、サイ  
ンしたものを受け取り、調査に至る。初回の調査を行う直前には、上述の依頼書を読んでも  
らい、同意書にて本人の了承を得たうえで、インタビュー調査を実施した。また、インタ  
ビューに入る際には、ICレコーダーと筆記のメモにてインタビュー内容を記録することを伝  
え、その承諾を得た上でインタビュー内容を記録した。

### 第3章 調査結果

#### 3.1 調査対象者概要

以下の表1に本研究における調査対象者を表すアルファベット記号、国籍、年齢、性別、職業、ジャニーズファン歴、インタビュー当時の担当とインタビュー年月日をまとめて示したものである。以降、調査対象者は表1の左端に記入したアルファベット記号で表すものとする。

表1 調査対象者一覧

	国籍	現状	年齢	性別	職業	ジャニーズファン歴	インタビュー当時の担当	インタビュー
A	中国	現役	24	女	大学院生	11年 (2009-現在)	嵐、関ジャニ∞ 山下智久など	2020/05/25, 12/25
B	中国	元	23	女	大学院生	3年 (2008-2012)	Hey!Say!JUMP (知念侑李)	2020/06/09
C	中国	現役	24	女	専門学校 学生	6年 (2014-現在)	嵐、関ジャニ∞ NEWS	2020/06/20, 06/22, 11/04
D	日本	現役	26	女	大学生	13年 (2007-現在)	SixTONES、 ジャニーズ Jr	2020/07/11
E	中国	現役	25	女	大学院生	6年 (2014-現在)	嵐(相葉雅紀)、 King & Prince (平野紫耀)	2020/11/24, 12/23
F	中国	現役	24	女	大学院生	12年 (2008-現在)	嵐	2020/11/28
G	中国	現役	28	女	会社員	3年 (2017-現在)	嵐	2020/12/08
H	中国	現役	31	女	会社員	20年以上	堂本光一	2020/12/15

## 3.2 調査対象者の回答と分析

### 3.2.1 Aさん

Aさんは、初回のインタビューしたとき24才で、大学院1年の中国人在日留学生の女性である。2009年から、嵐、関ジャニ∞、山下智久などのジャニーズアイドルが好きになりはじめ、ジャニーズファン歴は11年である。

#### 3.2.1.1 ジャニーズグループやタレントについて

Aさんは一番好きなジャニーズアイドルは嵐である。嵐の情報を獲得するため、嵐の公式ファンクラブに入っているのに加え、嵐のYOUTUBE、インスタグラムの公式アカウントもフォローしている。中国にいた時ウェイボー<sup>19</sup>を使って情報を収集したことがあるが、現在は日本に住んでいるため、ツイッターも利用していることに加えて、テレビで嵐のバラエティ番組を見ており、雑誌も見たことある。

嵐が好きになった理由は、「相葉雅紀のドラマを見て、そこで凄い、カッコいいなと思って、そして、嵐を知ったって、成り行きという感じ」と語った。そして、Aさんがジャニーズアイドルはジャニーズ以外のアイドルと比べて、優れている点について以下のように話している。

---

ジャニーズ以外のアイドルと比べて、ジャニーズアイドルは、まず、何にもやってもカッコいい。芝居でも、ダンスでも、歌でも、そして、そのものだけではなく、例えば、櫻井翔はニュースキャスターとか、大野智は芸術的なものがすごく上手とか、ひとりひとりが自分のスタイルというが、自分の得意のものがあるので、他のアイドルと比べて優れていると思う。それと、新しいものに挑戦するのも怖くない、勇気があるという感じする。

---

このように、ジャニーズアイドルに肯定的に評価しているけど、年下のジャニーズには「先輩と比べると、礼儀はあまり正しくない」と「ダンスや歌の能力はそんなに優れていない」等のよくないイメージが存在するとし、そのため推し変はしないと語った

---

年下と年上のジャニーズに対する推し変がない。ずっと櫻井翔が好きだった。私の知っているジャニーズアイドルはHey!Say!JUMP以上の世代で、その以降の子供たちがあまり知らない。最近、yahooニュースでその子たちの悪いニュースとか、もう出過ぎで、イメージが悪くなったから、それ以降の子供たちには興味がない。今はその「ゆとり時代」と言うかもしれないけど、あの子たちはけっこう前の先輩と比べると、礼儀はあまり正しくないと思うし、それと、そのダンスや歌の能力はそんなに優れていないと感じる。

---

<sup>19</sup> 中国版のTwitter、中国最大のSNSである。

以上のように、Aさんは、ジャニーズアイドルは何でも上手にできるし、新しいものへの挑戦も恐れない、勇気があるという感じがするという。加えて、Aさんはジャニーズアイドルが「夢を売る」「正統」なアイドルとっていて、テレビとコンサートの表現はギャップ感があるのでたまらないと語っている。これを見ると、Aさんがジャニーズのダンスや歌などの「アイドル」特性以外、司会や芸術の側面にも注目していることが考察できる。

### 3.2.1.2 ジャニーズファンコミュニティ・ファン活動につて

#### (1) ファン同士との交流

Aさんは他のファン同士を交流する際、インターネットを利用することが多い。特にSNSを使ってファン同士と情報交換することが普通的に行われている。

---

ツイッターとインスタをやるときそういうことはしないけど、ウェイボーをやったとき結構気楽にコメントをしている。フォローしているかどうか関係なく、自分の好きなアイドルに関する面白いものが見ついたら、結構気楽にコメントをして、コミュニケーションをとっている。

---

以上のように、Aさんは日本のSNSであまりファン同士と交流しなかったが、中国のウェイボーを使ったときは、他人に「自分の好きなアイドルに関する面白いもの」を気楽に交流できると語った。一方、日本のコンサートに行ったとき、ファン同士との交流について、「会場で話しやすい空気」とか、「見つけた面白いこと」とかがあったら、お互い話をすると語った。

また、Aさんは「ファン同士とネット上で話しているだけで、そこ限りのコミュニケーションを取っていて、それ以外のことを全然話せない」ので、ファンコミュニティの現実的な活動<sup>20</sup>には参加したことはないと回答し、ファンコミュニティでリーダーより、「フォロワーになりたい」と語ってくれた。

#### (2) 同担拒否について

「コンサート会場が指定席等で席を変更できない場合、隣の人が同じジャニーズの個人を応援するグッズを持っていたときどう思うか」と質問について、Aさんは「かまわない」と語った。

Aさんは同担拒否という行為を許す一方、自分自身は同担を拒否しない。同担拒否しない理由やファン同士での敵の判断については以下のように語った。

---

<sup>20</sup> ファン同士と一緒にあるメンバーの誕生日をお祝いなどオフラインでの活動

---

観点が違っていても交流ができれば推しの新しいことを見つけるかもしれない。ただし、ヤラカシ<sup>21</sup>は同担でもダメ。(第二回インタビューより)

グループ全体が好きだという人がいい、敵ではない。でも、グループ内の誰が好きじゃないとか、さらに「アンチ」<sup>22</sup>までになるとか、これは絶対ダメ。

---

このあと、「アイドルに恋愛感情を持っているか」という問いについて、Aさんは「持っていない」と答え、「生まれたときから今まで彼氏と付き合ったことは一度もない」と語った。

以上のように、Aさんは同担拒否をする人について自らの考察を「同じ人物が好きになっても、必ずしも話し合えるわけではない」という語りで、自分が同担を恋愛ライバルとする気持ちがないので、同担拒否をしないし、そのためファン同士でのマナーを重視する可能性がある。

### (3) ファン活動について

「どういう方式で応援するか」という問いに対して、Aさんは「DVD、CD、グッズなどを買う、コンサートに見に行く」応援活動があったり、「うちわを作る、絵を描く、雑誌を通訳する」こともあったりと答え、具体的な応援準備は以下のように語った。

---

うちわの制作について、まず、自分がデザインする。そして、印刷する。それと、通訳をしたいから雑誌を購入する。

買い物に行ったとき、ほとんど親が支払う。毎年もらったお年玉は全部自分で保管して使わないよ。そして、もし自分がCDや本などを買いたいなら、それを使う

---

Aさんは今まで応援するために10万円くらいかけていると語った。Aさんの家庭でお小遣いの金額は親と相談して決めて、定額がないし、Aさん自身もアルバイトをしたことがないと語った。それゆえに、Aさんは応援に投入する金額は高くはない可能性がある。

また、Aさんは、「漫画、小説、動画、PSで作ったイラストなど」ジャニーズファンの二次創作を結構見たことがある。さらに「一時、ジャニーズをキャラクターとしたBL漫画を描いたことがある」とも語った。

以上のように、Aさんは雑誌を通訳するとき、日本語の学習ができるし、二次創作を作るとき、絵画技術にも触れていると考察できる。

---

<sup>21</sup> いわゆる芸能人の追っかけの中でも、特にマナーの悪い人物に対して付けられる蔑称。

<sup>22</sup> 悪口やディスすることを指すファンを指す

### 3.2.1.3 同人文化・CP文化への態度について

Aさんは嵐ファンとして、嵐のカップリングが全部好き、逆CP<sup>23</sup>もいけると語ってくれた。全部のCPが好きになって、継続的に応援している理由は、彼女は以下のように語った。

---

嵐のカップリングは全部いいよ。SA（櫻井 x 相葉）とかSJ（櫻井 x 松本）とか、全部のCPが結構いいと思う。好きな理由は彼らが一緒にいるときの空気感がいいから。そして、観るだけで楽しい感じがする。応援の理由は特にない。彼らはずっとこのままにできれば、つまり、彼らの間のこのいい空気がずっと保たれば、ずっと応援する。

---

また、Aさんは同人文化、CP文化について、「結構面白いもの」と思っており、「メンバーの魅力的な点が現れる方法」として認識できたと語った。

第二回のインタビューでは、LGBTの人に対して「友だちの中でもLGBTの方もかなりいるし、それぞれ自分の個性を持って、普通の若い人」と言いつつ、特に何も思っていないことを語った。

このように、AさんはジャニーズのCP（カプリング）への受容度が相当高い様子が見受けられ、LGBTの人にも結構寛容であることがわかる。

### 3.2.1.4 調査対象者のライフストーリーについて

#### (1) 恋愛経験について

Aさんは恋愛したことは一度もないが、「もし将来恋人ができたなら、お互いに距離感を保った方がいい」と語った。他方、実際の恋愛対象の選択について、Aさんは以下のように語った。

---

もし、ジャニーズが本当に見たままの感じであれば、必ずジャニーズでしょう。でも、私が先ほど迷ったところは、アイドルは実際にその見たままの感じとは違うことがけっこうあるので、わからないよ。

彼らは役をつくりその役をやっていたキャラクターなのよ。でも、実際にはどのような人かわからないよ。知らないの。でも、もし見たままであれば、絶対にジャニーズの方が完全でいいじゃないか。

---

また、「自分の恋人についても、年上嗜好なのか年下でもいいのか」という問いについて、Aさんは相性が良ければどちらでも構わないと語った。

---

<sup>23</sup> 逆カプと称することもある。好きなキャラの組み合わせが他者と同じだが、カップリング表記の攻めと受けが逆である状態、またそれを示す言葉

このことから、Aさんは現在、ジャニーズアイドルに対しての恋愛感情はほぼないが、ジャニーズアイドルが「アイドル」という「役」をしていなければ、ジャニーズに恋愛感情を持っている可能性がある。

## (2) 学校生活について

Aさんは現在、日本の大学院の医学系研究科で公衆衛生という分野について勉強している。彼女は自身の生徒時代を振り返って、以下のように語った。

---

中三から高三までの学生生活を後悔しているよ。そのとき、自分が自分の成績にあまりに執着が深くて、同級生を見るとき、敵みみたいな感じだった。だから、もっと開放的にすれば、成績に対してそんなに強く求めなければ良かったと思う。

その時期、結構イライラしていた。焦っていたね、ずっと。

あ那时候、自分の先生はとて厳しくて、毎日、成績の話をしてた。でも、自分の反応が遅かったの、みんなについていけなかったの、焦ったね。

---

他方、中三から高三までのこの焦りを癒した存在は、嵐の「諦めない精神」であったことをあげた。

---

ジャニーズが好きだということが（当時）焦っていた自分を結構癒した。一番癒されたところは、例えば、嵐がデビューしてから、一時期、結構凹んでいたね。そして、8年目のとき、ようやくドームでコンサートをした。そして、その諦めない精神に凄く感動した。その精神も中三から高三まで自分を支えてくれた。

---

また、Aさんは中学と高校時代、ジャニーズが好きだということに周囲が優しい目で見えてくれたと答え、その時期、ジャニーズが好きだったことを後悔していないと語った。

## (3) 家庭教育について

Aさんの家族は、彼女が所属していたファンコミュニティの存在を知っており、ファン活動についても彼女がやるべきことをちゃんとやれば、どうでもいいという態度であったことがわかった。

また、「両親の感情は自分の身に引き付けて考えるなら模範として良い例として取られているか、悪い例として取られているか」という問いについて、良い例として取られているほうが多いと語った。

### 3.2.2 Bさん

Bさんは、インタビューした時23才で、大学院2年の中国人在日留学生の朝鮮族女性である。2008年から2012年まで、Hey! Say! JUMPに所属している知念侑李が好きだった。元ジャニーズファンのファン歴は3年である。

#### 3.2.2.1 ジャニーズグループやタレントについて

Bさんは一番好きなジャニーズアイドルはHey! Say! JUMPの知念侑李である。Hey! Say! JUMPの情報を獲得方法については以下のように語った。

---

当時にHey! Say! JUMPの情報を得た手段としては中国のサーチエンジン「バイドゥ」で彼らの情報を検索して出たものを主に見た。コミュニティとしては「バイドゥティエバー」というBBSで彼らが最近何をやったとか、最近出た写真を見ていた。あとは、彼らの動画は大体「Yin Yue Tai」というMUSIC VIDEO専門の動画ウェブサイトで見ている。2015年の時、Hey! Say! JUMPが好きじゃなかったけど、「ビリビリ」という動画サイトで彼らの動画も見ていた。その時期、Hey! Say! JUMPの文書や写真などは主に「ウェイボー」で見た。

---

このように、Bさん当時、Hey! Say! JUMPに関する情報は動画サイトを利用して得たことが多く、情報を探するためにオンラインのファンコミュニティに参加したことがあると語った。

知念侑李が好きになった理由として、「顔が好みだ」と語った。そして、ジャニーズアイドルがジャニーズ以外のアイドルと比べて優れている点について、Bさんは朝鮮族であるだけに韓国アイドルとの比較において、以下のように話している。

---

Hey! Say! JUMPのグループはコンサートで特技、アクロバティックな表現をしたことかな。例えば、知念くんが空中で跳んだりして、サーカスみたいなコンセプト、そういうアイドルとしてちょっと難しいことをやっていたところは韓国のアイドルと違う点だと思う。他のジャニーズグループのことはあまり知らないけど、Hey! Say! JUMPのコンサートはその中にアクロバティックな部分やサーカスの要素があって、それは一番違ったところを感じる。

---

「ジャニーズと他のプロダクションの違い」については、ジャニーズのアイドルがファンに「成長し続ける姿を見せたりする」ことを一番違うものと捉えて、見守り感が強いということ以下のように語った。

---

ジャニーズのアイドルは若いときにデビューして、ファンにこの成長し続ける姿を見せたりするんですけど、韓国のアイドルは練習生の時に、歌とか、ダンスの売れ前の力を鍛えて、結構プロとして鍛えてデビューした方がたくさんいるので、デビューしたときにもう完璧な芸能人として捉えた方が多くて、ジャニーズの、なんて言うのか、子供みたいに育ち続けてきた姿を見る楽しみと違うと思う。

---

また、Bさんはジャニーズが好きになった要素は「若さじゃなくて、その少年感がポイントだ」と語った。具体的には以下のように語った。

---

Hey! Say! JUMP が好きになったときに、メンバー全員が私より年上だったのであまり気にしなかったけど、今だったら、ジャニーズの新しいグループとかジャニーズ Jr の道枝駿佑みたいな人気がある Jr たちが好きなタイプとしてはあまり変わらないと言える。なぜなら、当時、好きな知念くんの少年感が強くて、今でも関心があるジャニーズ Jr もその清楚感と少年感が強い気がする。

---

以上のように、Bさんは、Hey! Say! JUMP がアクロバティックという特技ができることを普段のアイドルとの違いと捉えていて、ジャニーズの「アイドル」特性以外の側面も注目しているし、アイドルの成長にも注目していることが考察できる。

### 3.2.2.2 ジャニーズファンコミュニティ・ファン活動につて

#### (1) ファン同士との交流

Bさんは他のファン同士と交流するとき、バイドゥのBBSで、自分と他のファン同士が立てているスレッドに対して追加コメントや返信を書き込んだことがあったし、情報交換もあった。

---

正直に言うと、Hey! Say! JUMP のファンの仲間はなかった。バイドゥティエバで交流したことがあったファン同士について、あまり覚えてないけど、いると思う。具体的な交流は、まあ、バイドゥのこのBBSで、自分と他のファン同士が立てているスレッドに対して追加コメントや返信を書き込んだことがあるし、なんか自分が持っている写真や動画など、他のファンが持っているものと交換して鑑賞したこともある。

---

以上のように、Bさんは中国のオンラインファンコミュニティでファン同士と交流して情報交換したが、オフラインでファンコミュニティの活動は参加したことはないと言った。

## (2) 同担拒否について

Bさんは「同担拒否が許されるかどうか」の問いについて、「どうでもいい」、「他人の行為なので、無関心」と語った。同担拒否をしている人達に対する考えは以下のようなものだった。

---

印象としては、同担拒否している人たちは、たぶんアイドルを自分の所有物として見ているのかなと思う。この問題はあまり考えてないけど、もしこういう現象があったら、拒否しないと思う。むしろ、同担があれば喜ぶ。

---

このあと、「アイドルに恋愛感情を持っているか」という問いについて、Bさんは「持っていなかった」と語った。

以上のように、Bさんはアイドルの情報獲得するため、同担との交流が必要なので、同担が欲しかった、同担拒否しなかったと考察できる。

## (3) ファン活動について

「どういう方式で応援したか」という問いに対して、Bさんは日本のCDなどは金額が高く購入しなかったが、ファンが作った雑誌やパンフレットなどを買ったことがあると答え、具体的には以下のように語った。

---

CDとか買いたかったけど、2010年11月の頃は、お小遣いが少なかったし、日本のCDが高かったし、中国までの郵送料が高くて、CDを買ったことがない。でも、公式の雑誌じゃなくて、ファンが自主的に作った雑誌やパンフレットを買ったことがある。比較的最近の話なのですが、2018年日本にきてから、その時にHey! Say! JUMPのライブを見に行った。すでにファンじゃなかったけど、そのときの思いを重ねて、みたいなと思ってコンサートに見に行った。

---

Bさんはジャニーズファンとしての3年間で、応援に費やした金額は3万円以下と語った。その応援ができたため、Bさんは「親からもらったお小遣いを少しずつ貯めていた」と語った。しかし、Bさんは親からもらったお小遣いの金額が定額ではないし、Bさんの家族が彼女のファン活動について、反対していないが、「中国の親は学習と無関係なものにお金を遣うことが無駄と思うことが多い」ので、自分の親もそう思っていたようだと言った。

このように、ジャニーズのグッズやCDなどの値段が高い、親から「お金の無駄使いである」という文句があるので、Bさんは応援に費やした金額は非常に少なかったと考察できる。

また、Bさんは小説というジャンルの二次創作を見たことがあり、Hey! Say! JUMPのCP

を主人公として短いBL小説を書いたこともあると語った。

---

中国人で短いHey! Say! JUMPのBL小説を書いたことがあるけど、最後までいかなかった。最初に物語の流れはあまり考えてないし、書いてみたいと思ったのが、そのあと、段々に進まないとの感じがして、自分にこういうものを書く能力もあまり恵まれていなかったの、諦めた。

---

一方で、BさんはHey! Say! JUMPが好きになって、ドラマやバラエティ番組もいっぱい見たので、「日本語の聞く能力も上がったと思うし、さらに、少しの日本語も喋れた」と語った。

以上のように、BさんはHey! Say! JUMPの番組動画を見たとき、日本語の学習が行われるし、二次創作を作るとき、文章を書く技能も一定程度に身につけていったと考察できる。

### 3.2.2.3 同人文化・CP文化への態度について

BさんはHey! Say! JUMPのCPが一部好き、逆CPは絶対ダメと語ってくれた。CPが好きになって、継続的に応援している理由やなぜ逆CPがダメかについて、彼女は以下のように語った。

---

山田涼介と知念侑李とか、森本龍太郎と知念侑李とか、中島裕翔と山田涼介のCPが好きだった。好きになった理由は、番組とか、舞台上で、この二人の交流やインタラクションが多く思いあっていると思う。

自分が好きなCPの逆CPは絶対ダメ。他のCPは興味ないね、同人小説も見たくない、彼らはCP感を持ってないと思う。

---

また、Bさんは同人文化、CP文化について、「ただのファンの妄想」と考えるが、「同人文化を通じて、同性愛の存在を知った」とも語った。

---

同人やCPなど、ただのファンの妄想だと思う。でも、自分がその同人文化を通じて、同性愛の存在を知った。まあ、LGBTの啓蒙かな。ジャニーズが好きになった前に、同性愛の存在は全然知らなかったけど、ジャニーズファンになって、CPのBL小説を見たあと、なんか、男子と男子の間でも恋愛感情があるんだなと意識した。

---

このように、Bさんはジャニーズファンになって、CPのBL小説を見たあと、同性の間でも恋愛感情があると意識して、LGBTへの受容度が高くなったことがわかる。

### 3.2.2.4 調査対象者のライフストーリーについて

#### (1) 恋愛経験について

Bさんは過去、曖昧な段階があったものの、正式に確定した恋愛関係がないと語ってくれた。今までの関係に対して、「曖昧なことが多いけど、お互いに好感を持っているので、恋愛と同じじゃないか」と語った。他方、憧れる恋愛について、Bさんは以下のように語った。

---

もし、私と相手とが恋人になったら、まず、その相手は必ず私と共通点があるといい。共同の興味などね。そして付き合いは友だちみたいな感じで。最後としては、お互いに一定の個人のスペースを持っていた方がいいね。お互いの信任や尊敬も大事ね。

---

また、「実際の恋愛対象としては、日常で会うことが容易な男子とジャニーズとでどちらが優位か」の問いについて、Bさんは「日常で会いやすい男子がいい」と語った。

このことから、Bさんはジャニーズアイドルの間での恋愛感情が楽しみであり、ジャニーズアイドルに対しての本人の恋愛感情はほぼなかった可能性がある。

#### (2) 学校生活について

Bさんは現在、日本の大学院で図書館情報学を勉強している。彼女の中学と高校時代と振り返って、ジャニーズが好きだったことに対する周囲の評価は以下のように語った。

---

私は中高一貫の朝鮮族学校を通っていたので、周りの人は東方神起などの韓国系アイドルが好きになったことが多い。当時の自分は日本のドラマを見て、Hey! Say! JUMPが好きになった。そのとき、親友のことがあまり理解できなかった。なぜなら、親友との審美観が違うので、私が彼らの顔がかっこいいと思ったけど、親友が全然そう思っていなかった。でも、たぶん私の影響を受けたのかな、だんだんと彼女もジャニーズの顔がかっこいいと思っていった。

---

他方、Bさんは小学校での課外活動で絵画や書道などを勉強して、「この課外活動が学校の課程より面白い、楽しい」と思った一方、「中学校と高校のとき、塾に通っていたので、課外活動はあまりしない」と語った。さらに、Bさんは中三から高三までの学生生活について、以下のように語った。

---

中三から高三までの学生生活を後悔していない。まあ、でも、学習については、インターネット学習をもっと多く利用すればいいと思う。当時、インターネットを利用して、娯楽活動ばかりした。

---

### 3.2.3 Cさん

Cさんは、初回のインタビューした時23才で、専門学校在学中の中国人在日留学生の女性である。2014年から、嵐、関ジャニ∞、NEWSのジャニーズアイドルが好きになりはじめ、ジャニーズファン歴は6年である。

#### 3.2.3.1 ジャニーズグループやタレントについて

Cさんは一番好きなジャニーズアイドルは嵐である。嵐の情報を獲得する方法は、中国のウェイボーで特定のアカウントをフォローして、他のファンがリツイートした情報を見ることがと、ジャニーズからの公式メールを得て嵐の出演情報などを獲得することがある。現在、日本におりTwitterも利用しているが、「専門的にジャニーズの情報を収集するアカウントがない」ので、ウェイボーを使うことが多いと語った。

嵐が好きになった理由は、「嵐の面白さとメンバー達のお互い仲良さなど、このグループ内の雰囲気が好きだ」と語った。この「雰囲気」について、以下のように語った。

---

例えば、二宮くんは以前ハリウッドの映画を出演していたとき、外国のメディアに対して『私は俳優じゃない、日本のアイドルグループのメンバーです』と自己紹介した。自分のことを強調なくて、グループのことをもっと大事にする感じ。つまり、個人よりグループの方を一番大事に対すること。

---

そして、Cさんがジャニーズアイドルはジャニーズ以外のアイドルと比べて、優れている点について以下のように話している。

---

他のアイドルは結構ファンとプライベートでの連絡が多い。他のアイドルに比べて、ジャニーズアイドルのヤラカシな問題がそれほど多くない。そして、嵐がワクワク学校という演出企画があるじゃないですか、他のグループではそんな演出がありません。このように、ジャニーズアイドルはアイドルらしい役だけでなく、アイドルとほぼ関係ないこともやっていることが好き。

また、ジャニーズがジャニーズのファンに対しての管理方法が好き。お金を支払うだけでその人を応援できることがすごく便利だと思う

---

Cさんは3つのジャニーズグループが好きだが、そのことに「推し変じゃない、推しが増えるだけ」と語った。

以上のように、Cさんは、ジャニーズ情報を特定の発信者から受けたいことがわかる。そして、ジャニーズアイドルの「アイドル」らしさ以外の点にも注目していると考察できる。

### 3.2.3.2 ジャニーズファンコミュニティ・ファン活動につて

#### (1) ファン同士との交流

Cさんは他のファン同士で交流する際、ウェチャットを利用することが多い。ウェチャットで自分が見つけた嵐の可愛い動画や嵐に関する情報を共有して、嵐を称賛することが日常的に行われると語った。

また、Cさんは自分が参加したファンコミュニティの活動について、以下のように語った。

---

3回くらい活動に参加した。1回目は広州でファンが作ったグッズの販売会に参加して、嵐のコスプレをした。2回目は深センで同様の活動に参加した。そして、3回目はたまたまみんなが日本にいて、みんな集まって、一緒に食事をしたり、カラオケに行ったりした。ファンコミュニティの人数は広州では100~200くらい、深センは100人くらい、日本は5人。日本人がいない。

活動に参加する理由と継続のモチベーションはファンが作ったグッズを買いたい、同じ地域で嵐のファンともっと多く知り合いたい。

(参加するためにどのような努力をするか)

当日は綺麗なメイクをして、好きな作者へのプレゼントを用意する。そして、自分が創作した作品集を印刷していき、これを欲しい人がいればあげる

---

以上のように、Cさんはこれらの努力をする際、絵画やメイクなど、学校で勉強できないことを学習できていると考察する。

#### (2) 同担拒否について

「コンサート会場が指定席等で席を変更できない場合、隣の人が同じジャニーズの個人を応援するグッズを持っていたときどう思うか」と質問について、Cさんは以下のように語った。

---

私はちょっと人見知りなので、話しかけることが苦手だ。だから、うれしいけど、話をかけない。さらに、自分もちょっと心配、例えば、丸山がこちらに向かって投げキスをしたとする。この投げキスは誰にあげたものなのかわからないよ。

---

Cさんは同担拒否という行為が許されて、理解できるけれども、自分が同担を拒否しないと話している。同担拒否しない理由や同担拒否についての考察は以下のように語った。

---

同担拒否しない理由は、好きな推しという点が同じだから、一緒にワクワクなれると思う。

同担拒否は理解できるけど、自分はしない。例えば、大学るとき、周りに二宮さんを彼氏として好きな人がいた。私も二宮さんが好きなので、彼女はずっと私を恋愛ライバルとして同担拒否している。たぶん、同担拒否する人は、他人が自分のアイドルに対する疑似恋愛感情を邪魔させたくないと思う。その行為は理解するけど、自分はそういうことをしない。自分にとって同担は友だちみたい存在だ。しかし、同担拒否をする人は自分にとって友だちではない、敵という存在だ

---

このあと、「アイドルに恋愛感情を持っているか」という問いについて、Cさんは「現在、関ジャニの丸山に持っている」と語った。

以上のように、Cさんはファンサービスをもらいたい場合に、同担に対して、自分がもらえるファンサービスを奪うことを心配する気持ちは同担拒否と近い心情と考えられる。同担拒否をする人について自らの考察を「自分のアイドルに対する疑似恋愛感情を邪魔させたくない」という語りで、自身もジャニーズアイドルに恋愛感情を持っているけれども、同担と友だちになってもっと多くの情報を交換したいがために同担拒否できない可能性がある。

### (3) ファン活動について

「どういう方式で応援するか」という問いに対して、Cさんは「ボランティアとして、ジャニーズアイドルの映像に字幕をつける」とか、「お金を出す」とか、「周りの人に嵐をおすすめ」とか、「うちわを作る」などの方式で応援すると語った。

そして、「この応援をするためにどのような努力（準備）をするか」という問いについて、Cさんは「アルバイトをしたり、日本語を勉強したりするなど」と語った。

Cさんは今まで応援するためにかかった金額は「山ほど、計算できない」と語った。Cさんの家庭でのお小遣は月定額ではないが、友だちと遊ぶとき、一回5千円をもらったことがあると語った。Cさん自身もアルバイトをしたことがあるので、応援に投入した金額はかなり高い可能性がある。

また、Cさんは、小説、動画および漫画の二次創作を見たことがあるし、自分が二次創作をしていたこともあると答え、自分で創作した二次創作について、以下のように語った。

---

なんか、アイドルとの恋愛小説を書いている。

(どのような恋愛小説か?)

自分が想像した女性と嵐のメンバーが恋愛する小説、

---

以上のように、Cさんはボランティアとして、ジャニーズアイドルの映像に字幕をつけていることから、ファンコミュニティへの貢献意欲があると考察できるとともに、Cさんのファン活動で日本語の学習や、絵画やメイクなど学校で勉強できないことも触れることもできると考察できる。

### 3.2.3.3 同人文化・CP文化への態度について

Cさんは嵐ファンとして、嵐の櫻井翔 x 松本潤のCPが好き、逆CPをも受け入れるけれども、違和感を覚えると語ってくれた。このCPが好きになって理由は、彼女は以下のように語った。

---

好きになった理由は、彼らの少年の時期、11、12才の松本君は「私は櫻井翔が一番大好き」だと言ったことがあるので、私はこの直接の告白が好き。でも、彼らはどんどん成長して、年を取ったら、あまり告白することがない、そして、2人のお互いの交流も以前より少なくなった。私はこのような変化、あるいは逆さがとても好き。

---

また、Cさんは同人文化、CP文化について、いいと思っており、「他人にもっと簡単におすすめできるし、彼らの認知度が上がる」と語った。

LGBTの人に対して、Cさんは「ジャニーズCPが好きになった後、LGBTへもっと寛容になった」と言いつつ、「周りにLGBTの人がいるので、尊重する」を語った。

### 3.2.3.4 調査対象者のライフストーリーについて

#### (1) 恋愛経験について

Cさんは過去、恋愛したことがあって、恋愛は「甘い味もある、酸っぱい味もあるりんごみたい」と語った。他方、実際の恋愛対象の選択について、Cさんは以下のように語った。

---

日常で会うことができる男の子がいい。ジャニーズはアイドルなので、自分と彼らに距離があるので、現実が見えない。

(今までの恋愛関係に対する態度あるいは評価)

お互い支えあっていることが感じるのいいと思う。

(憧れる恋愛は何ですか)

お互いに理解して、楽しいときも一緒、悲しいときも一緒、なんかお互い支えあっている恋愛に憧れている→何でも一緒にやる恋愛が望ましい。

---

## (2) 学校生活について

Cさんは現在、日本の専門学校で勉強している。彼女の大学時代を振り返って、その時期、ジャニーズが好きなことに対する周囲の反応については以下のように語った。

---

ジャニーズの動画を見るとき、ちょっとうるさいと言われたがほとんどが良い評価だった。私がよく日本に舞台劇を見に行くことがあるので、舞台に関する知識を知っていて、また旅行の攻略などもしている。みんなから私はたくさんのことをよく知っているように見える

---

Cさんは中高と大学生の時期、文学サークルや合唱団に参加したことがあって、小学生の家庭教師としてのアルバイトもしていたことがある。大学の学校生活は楽しく過ごせたので、後悔していないと答え、そのときジャニーズが好きなことも後悔していないと語った。

以上のように、Cさんはアルバイトや部活などを普通にしたことがあるので、社会学習の機会が多くなる可能性がある。

## (3) 家庭教育について

Cさんの家族は、彼女が所属するファンコミュニティの存在を知らなかったし、ファン活動について反対していない態度がわかった。

また、「両親の感情は自分の身に引き付けて考えるなら模範として良い例として取られているか、悪い例として取られているか」という問いについて、両親がすでに別れているので、悪い例として取られていると語った。

### 3.2.4 Dさん

Dさんは、インタビューした時26才で、大学6年生の日本人の女性である。2007年から、嵐、Hey!Say!JUMP、Kis-My-Ft2、田中樹、SixTONES、ジャニーズ Jr. のグループなどの順番でジャニーズアイドルが好きになって、ジャニーズファン歴は13年である。

#### 3.2.4.1 ジャニーズグループやタレントについて

Dさん現在、一番好きなジャニーズアイドルはSixTONESとジャニーズ Jr. である。ジャニーズの情報を獲得するため、雑誌を見た以外、Twitterや、ジャニーズが独自で運営している情報サイトの「アイランドTV」とか、YouTubeとかを利用していると語った。

ジャニーズが好きになったきっかけは、嵐が出演したドラマを見たことである。具体的な経緯を以下のように語った。

---

きっかけは……ジャニーズを好きになったきっかけ自体は、たぶん、『花より男子』というドラマで、ちゃんと嵐を認識して、そのあとに『山田太郎物語』っていうドラマがあったんだけど、それで嵐の櫻井翔くんを好きになった。(中略)

明星とかの雑誌を見てたら他のジャニーズも出てるので、その繋がりですごく好きになった感じ。

---

そして、Dさんはジャニーズアイドルがジャニーズ以外のアイドルと比べて、優れている点や他のアイドルプロダクションとの違いについて以下のように語った。

---

やっぱり歌を歌うだけじゃなくて、ダンスとか、バラエティのトークとかにも力を入れているし、グループの中でのメンバー同士の関係性とかも、ジャニーズならではのじゃないかと思う。

ジャニーズはジュニアのころから、10代とか、幼い頃からずっといっしょにやって来た子がグループを組んでいるので、関係性とかも、他の事務所やプロダクションとはちょっと違う。他のプロダクションは10代20代になってからグループ組んでやってるけど、そこら辺が違うのかなって思う。

---

また、「なぜ、年上から年下のジャニーズに推し変をしたか」の質問について、Dさんは以下のように語った。

---

最初の頃は同時に推してたけど。浪人してた頃に、ちょっとだけテレビとか見れない、あんまりジャニーズの情報を見ないようにしていた時期があって、それが終わって戻ってきいたら、いつの間にか、気付いたら年下になった。理由はちょっとわからないですね。飽きたとかではなく、気付いたら、もう。

---

以上のように、Dさんは、ジャニーズアイドルがたくさん領域で力を入れていることとグループメンバー同士の幼なじみの関係性をジャニーズの独自性として捉えていると、ジャニーズの「アイドル」特性以外の側面やお互いの絆にも注目していることが考察できる。

### 3.2.4.2 ジャニーズファンコミュニティ・ファン活動につて

#### (1) ファン同士との交流

Dさんとファン同士の交流は「会場や現場で隣に立っている人に話しかけたりして仲良くなったり、Twitterで知り合った人と仲良くなったり」するような方式で行われる。

「TwitterやInstagramなどのSNSで他のジャニーズファンと知り合いになって、友達になったとき、その友情はどのくらい続くか」の問いについて、以下のように語った。

---

それは人によるね。直接会ったことがあれば結構長く続くと思うけど、どれくらい……？単にフォローしあっているだけだったら、結構長く続くと思う。

---

そして、他のファンがTwitterでタレントやアイドルを炎上して（炎上させて）、悪口を言ったりする行為について、Dさんはその気持ちに理解を示し、「否定的な意見も持たない」一方、「自分から積極的に参加することもない」、「無関心なわけではない」と感じている。

他方、Dさんはオフラインの2～3人くらいのファンコミュニティでファン活動に参加したことがある。具体的な活動やコミュニティの構成は以下のように語った。

---

カラオケに行ってジャニーズの曲を歌ったり、ジャニーズショップとかの関連のところと一緒に出掛けたりとか、あとはずっとしゃべり続けたりとかね。そのファンコミュニティの規模は、先ほど言ったように2～3人程度。参加者の年齢は時によるけど、同じ世代ね、同世代の女性。10代の人と関わったりすることもあるけど、20代が多いかな。

---

Dさんは他のファンと交流するとき、人間関係についての考察を以下のように語った。

---

人との距離感とか。ジャニーズ関係で知り合った人と、ずっと関係続く人もいれば、関係が薄くなって自然消滅しちゃうこともあるけど、そこで一喜一憂せず、良い距離感を保ちながら付き合い続けるのが大事な、と思うね。

---

Dさんは「自分の気持ちを共感してもらいたい」から「可愛い恰好をする」ことと、ファンコミュニティの活動に参加して、他のファンから「グループに限らず自分の知らない情

報」を教えてもらったことを語っている。このことから、ファン同士の間で良い距離感を保ちながら付き合い続けることで、ファンコミュニティで推し以外の多様な情報獲得が進んでいく様子が考察できる。

## (2) 同担拒否について

「コンサート会場が指定席等で席を変更できない場合、隣の人が同じジャニーズの個人を応援するグッズを持っていたときどう思うか」の問いについて、Dさんは「ちょっと嫌だ」と語ってくれた。加えて、Dさんは同担拒否という行為が許されて、自分も同担拒否をする理由や目的は以下のように語った。

---

コンサートに行ったときにファンサ<sup>24</sup>してほしいじゃないか。だけど自分はしてもらえないのに、他に人がハイタッチとかしてるのを見ると、嫌だなって思うのがきっかけだろう。具体的にファンサ、アイドルから自分への愛が他人に奪われる感じ、独占欲みたいな。

同担拒否を通じて、極端にいうと、「担当が自分だけを見てほしい」みたいな感じ。

---

そして、「ほかのファン、どこまでが敵で、どこまでが身内か」について、Dさんは以下のように語った。

---

敵は……特に、敵とは感じたことはないね。でも、自分の推してるグループと競ってるグループの、ファンの人自体が敵というよりは、CDの枚数や再生回数の競い合いとか、そういう（ファンの）「行動」に関しては敵だと思うね。ファンの人自体に悪意や敵意は感じないけど、「負けられないな」と思う。（中略）

身内……同担拒否と少し矛盾するかもしれないけど、やっぱり同じグループを推してる人は……でも身内って言わないね。

---

このあと、「アイドルに恋愛感情を持っているか」という問いについて、Dさんは「一人だけに持っている」と答え、現在、アイドル以外の人に恋してはいないと語った。

以上のように、Dさんは自分が同担拒否をしているので、同担拒否という行為について、「いいというか、しょうがない」という語りで、推しを独占したい気持ちがあることがわかる。また、Dさんは同じグループを推しているファンと親しむ一方、「身内」とは言及しないだろうと語った。他の中国のジャニーズファンと比較して、Dさんは同担拒否の気持ちが大変強いと考察できる。

---

<sup>24</sup> 「ファンサービス」の略称。投げキスや手振りなどファンに喜ばせる行為ということ

### (3) ファン活動について

「どういう方式で応援するか」という問いに対して、Dさんは「コンサートに行ったり、動画を再生したり、グッズを買ったり」と答え、その応援にかかった金額は以下のように語った。

---

大学に入ってからつくばに来たんけど、それまでは北海道にいたので、結構お金の使い方が変わって、変化があったんだけど……どれくらい？ そうですね……年に、大学に入ってから、年に4, 50万円は余裕で使っていると思うので。いや、そんなに使ってないかな？500万くらい

---

Dさんは年間50万円の応援資金を使えるため、「アルバイトをするとか、節約するとか、あとはダイエットしたりする」ことがあると答え、「アルバイト自体がいい社会経験にはなかった」と考えている。

Dさんの受け取る仕送りは月6万くらいが、中高時代のお小遣いは「必要な時にもらう」形式で、月定額ではなかったと語った。買い物に行くとき、基本的に親が支払うが、アイドルのグッズとか雑誌とかCDなどはDさん自身で支払うと語った。

この語りを見ると、Dさんについては、ジャニーズアイドルに関するものは自分が決定者として気楽に買い、親に依頼はしたくない心情が見られた。

また、Dさんは、「ファンが編集した動画」の二次創作を「なんとなく見た」ことがありながら、自身も「切り貼りしたり、テロップ入れたり、音付けたり」という動画編集の二次創作をしたことがあると語った。

#### 3.2.4.3 同人文化・CP文化への態度について

Dさんにとって、好きなジャニーズコンビがあるけど、そのコンビは「ジャニーズで言ったらシンメ<sup>25</sup>みたい」と捉えて、コンビの間でBLのような恋愛要素がないと思われると語った。

そして、同人文化・CP文化について、彼女の考察は以下のように語った。

---

さっきのジャニーズと他のプロダクションの違い、みたいな話でも触れたんだけど、小さいころからジュニアとして一緒にやってきてグループになるのがすきだったけど、その一環というか、入所してからずっと一緒にいるという関係性が好きね。

それでお互いのことをわかり合ったりするところがいい。

---

<sup>25</sup> シンメトリー、対の位置で踊ること

また、Dさんはジャニーズを知ったあと、BLを知るようになった。このように、DさんはジャニーズのCP（カップリング）への受容度が低いですが、ジャニーズを通じてBLの概念に接触してきたことがわかる。

### 3.2.4.4 調査対象者のライフストーリーについて

#### (1) 恋愛経験について

Dさんは現在ジャニーズアイドルに恋愛感情を持っているが、アイドル以外の人に恋していないと語った。

Dさんは過去、経験した恋愛について、「悪くはなかった」、付き合っているとき、楽しかったと評価した。他方、実際の恋愛対象の選択について、Dさんは以下のように語った。

---

どちらがいい……日常で会える人の方がいいんじゃないかと思う。

（なぜか？日常で会える男子を選択した理由はあるか？）

恋愛の定義が「会いたいと思うこと」なので、それが叶うかどうかは重要なポイントだと思う。

（やっぱりアイドルは会うことが少ないと思われるか？）。

まあ、そうだね。友だちとかに比べたら。

（自分の恋人について、年上がいいか？年下がいいか？）

あまりこだわりはない。

---

このことから、Dさんは現在、ジャニーズアイドルに対しての恋愛感情はあるので、同担拒否の気持ちが強く、同担により不寛容の可能性はある。

#### (2) 学校生活について

Dさんは現在、大学で医学を勉強している。彼女の生徒時代を振り返ると、小中高のスクールカーストで自分の位置は低くなかったと答え、高校時代の学校では学力は強いほうと語った。

そして、中高時代、ジャニーズが好きなことに対する周囲の反応については以下のように語った。

---

まあ、高校時代、ジャニーズ好きじゃない人にとっては、私がしつこく（ジャニーズについて）話していたので、半分呆れられてたと思う。

（中学時代も同じですか？）

中学は結構周りにも（ジャニーズファンが）多かったの。周りの友達もみんな好きだったので、一緒に楽しんだと感じかね。

---

また、ジャニオタのカミングアウト<sup>26</sup>について、Dさんの考察は以下のように語った。

---

私は特に隠したことや、隠そうと思ったことはないね。これから仕事とか、社会人になったときは、カミングアウトすると、有給を取りづらいタイミングがあるのかな、ってちょっと思っている。

---

Dさんは中高と大学時代、それぞれ部活やサークルに参加したことがあると語る。大学のサークルと中高の部活の差については、

---

中高の部活はある程度時間が決まってる中でやっていたので自分の生活に負担はなかったけど、大学だと結構プライベートな時間を割いてサークル活動することもあったので、それはちょっと違いかね。

---

と語り、中学から高校までの学校生活は友達に恵まれて楽しく過ごせたので、後悔していないと語った。

以上のように、Dさんは学生生活を順調に送ったので、ジャニオタのカミングアウトに対して寛容であったが、社会人になると、会社や他人からの目線を敏感になって、ジャニオタのカミングアウトに対しては寛容ではなくなる可能性がある。また、中国のジャニーズファンより、アルバイトや部活などを日常的にしたことがあるため、社会学習の機会が多いことが考察できる。

### (3) 家庭教育について

Dさんは両親が教育熱心な方だったというが、

---

厳しいというわけではなく、自分のやり方に任せると感じるんだけど、最低限のサポート、例えば塾に通わせてくれたりとか、そういうのはちゃんとやってもらえたかな、と思う。(中略)

コミュニケーションはよくとれていると思います。実家にいる時もそうですし、今もテレビ電話とか、週に2~3回しているの。

今は、親は普段の自分を見てないので、「勉強してるの」と訊いてくるようになりましたけど、特に、成績について話すとか、そういうことは変りないですね。高校も、今も、そんなにないいです、厳しく言われるとか。

---

と語った。一方、Dさんの家族は、Dさんのファンコミュニティやファン活動の存在を知っ

---

<sup>26</sup> 自分が他人にジャニーズオタクという身分を告白すること

ていて、具体的な態度については以下のように語った。

---

(家族は、自分のファンコミュニティの存在を知っているか?)

そういう友達がいるってことは知ってると思う。

(家族は自分のファン活動についてどう思うか?)

特に否定も肯定もしてないね。でも、地元でコンサートがあるときは、会場まで親が車で送ってくれたりするので、協力的と言えれば協力的だ。

(親はあなたの趣味について態度はどうであるか?)

特に反対されたことはないです。放任で。

(支えたり、支援されたりしたことはあるか?)

そうだね、お金の面とか、会場まで車で送ってもらったりとか、自分が忙しいときに何か買いにいったりしてもらったりとか、してもらったことがある。

---

以上のように、Dさんの両親がDさんの教育に厳しい一方、Dさんの趣味やジャニーズに関する活動にかなり寛容であることがわかる。

### 3.2.5 Eさん

Eさんは、初回のインタビューした時25才で、大学院1年の中国人在日留学生の女性である。2014年から、嵐、King & Princeなどのジャニーズアイドルが好きになりはじめ、ジャニーズファン歴は6年である。

#### 3.2.5.1 ジャニーズグループやタレントについて

Eさんは好きなジャニーズアイドルは嵐の相葉雅紀とKing & Princeの平野紫耀である。彼らの情報がウェイボーとか、YouTube、ビリビリとか、ジャニーズの公式ウェブサイトとかを利用することで、ほぼネットから得られると語った、

ジャニーズのうち彼らを好きになったきっかけは「中国でネット上の彼らのバラエティ番組を見るとだんだん好きになった」一方、好きになった理由は「純粹、天然で、人に優しい、見るとよく笑っていることが好き」と語った。そして、Eさんはジャニーズアイドルがジャニーズ以外のアイドルと比べて、優れている点について以下のように話している。

---

まず、顔。王道的なアイドルの顔として、ちょっといい距離感があって、他のアイドルと違うと思う。そして、いろんな領域で、例えば、番組をやっているし、歌を歌うし、ダンスを踊るなど、活動をしていること

---

このように、ジャニーズアイドルとファンの「距離感」を強調して、アイドルとした存在がしっかりしていること「アイドルという感じが強い」と語った。

また、推し変について、以下のように語った。

---

以前、相葉雅紀だけ推したけど、現在、相葉雅紀と平野紫耀2人を推しているの、これはたぶん推し変かな。

(なぜ推し変をするか?)

King & Princeは新アイドルグループだから、見える機会が大きくなった、あと、若いだから(笑)若い子を推しになりたいなという気持ちがある。

(なぜ若さだから若い子を推しになりたいか?)

あの子はデビューしてばかりだから、もっと輝いてほしい。

---

以上のように、Eさんは、ジャニーズアイドルがいろんな領域で、活動をしていることを注目しているが、推している若いジャニーズが「もっと輝いてほしい」と語っており、ジャニーズが成長することを見守りたい気持ちがあることが考察できる。

### 3.2.5.2 ジャニーズファンコミュニティ・ファン活動につて

#### (1) ファン同士との交流

Eさんはウェイボーという SNS を使ってファン同士と交流することが日常的に行われている。また、「現実にファン同士と会うか」の問いについて、以下のように語った。

---

会うけど、なんか、もともと現実での友達だから、たまに二人ともジャニーズが好きで交流するね。ネットで知っているファン同士と現実で会ったことがない。

---

Eさんはファン同士との「雰囲気があわなかったら、あまり親しくない」って、オンラインのジャニーズファンコミュニティに参加したことがなかったと語った。

---

参加しているファンコミュニティはネットではない。自分の周りの友達がジャニーズのファンで交流できるから、わざわざネットでのファンコミュニティで交流しない。でも、以前 AKB のファンの時、AKB のファンコミュニティに参加したことがある。

(現実でのどのようなファンコミュニティか?)

現実でのファンコミュニティでは、高校でも、大学でも、かならず2人くらいのファンがいて、ジャニーズ的话题を一緒に話す。彼らは私と同じ年齢の中国人女性。

(ファンコミュニティへの参加の理由と継続するモチベーションは何か?)

モチベーションは情報共有がしやすくなることで、もし何があったら、例えばチケットの購入で4人が必要であれば、すぐにできるとか。(第二回)

---

以上のように、AKB のコミュニティはオンラインのファンコミュニティだったが、ジャニーズの方は実際に会える人がおり、そういう人の方が自分の利益にもなり、わざわざネットで別のコミュニティを作る必要がないことが考察できる。

また、Eさんはファンコミュニティでフォロワーになりたいけれども、ファンコミュニティにおいて「2人、3人しかないので、自分が努力しなきゃという感じする」。特に、「コンサートに行くとき、いろんな資料を探さなきゃダメだな」と語った。

これを見ると、Eさんは「チケットを買うため、資料を探す」などの努力をするとき、日本語学習や情報を探す能力を身につける可能性がある。

#### (2) 同担拒否について

「コンサート会場が指定席等で席を変更できない場合、隣の人が同じジャニーズの個人

を応援するグッズを持っていたときどう思うか」の質問について、Eさんは以下のように語った。

---

まず、その子がきれいか可愛いかを確認して。嵐の場合は、「あ、やった！もうひとり相葉さんのファンだ」と普通に喜ぶ。King & Prince の場合は、少しだけ嫌な気持ちがある。

(嫌な気持ちになった原因は何か)

やはり嵐と違って、King & Prince の会場はドームじゃなくて小さい体育館だから、ファンサービスもらいやすい。見ている時、もし周りのファンが自分と同じ推しのグッズを持ったら、そのサービス（その人に向かって投げキスやピースなど、）を誰にあげたのかが分からない、これが嫌だ。

---

第二回のインタビューで、Eさんは「その子がきれいか可愛いかを確認」することを振り返って、以下のようにもっと深く語った。

(嵐の場合、可愛い子がいる方が嬉しいの？それとも、可愛くない子いる方が嬉しいのか？)

両方ともあるかも。綺麗な子なら、同じ人が好きだという、自分が好きなアイドルにこのようなファンがいることがうれしいけど、嬉しくないとしたらその子が綺麗だから、ファンサももらいやすいし、自分が負けちゃった感じがするから。(第二回インタビュー)

---

ファンサービスに対して、King & Prince の場合は嵐の場合より、強く争う気持ちが生じている。

その理由の一つは、King & Prince はまだジャニーズほどメジャーではなくて、嵐がジャニーズの中でメジャーである。東京ドームで大勢の人に向かって投げキスをしたところで、これが誰に向けられたものか分からずしょうがないという話であると考えられる。

また、Eさんは同担拒否という行為が許されるし、理解するが、自分は同担を拒否しない。同担拒否については以下のように語った。

---

嵐の中で稀少だけど、King & Prince の現場でよく見られる。やはり他の人と被らなかつたら、推しからのファンサービスをもっと簡単にもらえる。もしこのあたりでそのメンバーのファンがひとりだけだったら、そのメンバーがファンサービスをしている時、受ける人は自分しかないとなる。

(どういう背景で同担拒否が出てきたか？)

一番多いのはジャニーズ Jr の場合。距離も近いし、ファンサービスをもらうチャンスも多いので。

---

Eさんは同担拒否をしないと話しているけど、King & Prince のところの反応（「コンサート会場」）、同担拒否と近いと考えられる。

このあと、「アイドルに恋愛感情を持っているか」という問いについて、Eさんは「持つ

ていない」と答え、「相葉雅紀はもう私より14才年上で、もうひとは年下だけど、なんとなく息子として見える」と語った。

以上のように、Eさんは、年下の人が恋愛対象で本当はKing & Princeも恋愛対象になりうるけど、それを口にはできない事情がある、あるいは、同担拒否しないという立場上、恋愛対象とするのはおかしいという規範が働いているが、心の内にはなんとなく恋愛対象のようになんか感じている部分があるとも考えられる。

### (3) ファン活動について

「どういう方式で応援するか」という問いに対して、Eさんは「お金を出して応援する」と答えた。具体的な応援活動や準備、学んだことは以下のように語った。

---

そして、コンサートに行く時、うちわを作るとか、推しのメンバーカラーと同じ色の服を着るとか。

(今までどのくらいお金をかけているか?)

100万円くらいかな

(この応援ができるためにどのような準備をするか?)

まず、貯金。そして、Instagramを見て、他の子は何をしているかを調査する。

(他の人にすすめたことがあるか? どういう方式で?)

ある。「この番組が面白いですよ、歌が上手ですよ」って、「リンクをあげてみて」という方式。

(学んだことがあるか)

日本語と接触のきっかけはジャニーズじゃないけど、ずっと勉強し続けたい気持ちは彼らの動画や取材の内容をもっと見たいから。それで日本語の勉強がもっと上手になった。他には、うちわの手作りとか、コンサートに行く時、きれいになりたいからメイクやヘアスタイルとかいろいろ勉強したね。

さらに、他のファンがアイドルのために新しいことを勉強して、自分もがんばらなきゃいけないという気持ちがある。

---

また、Eさんは、「マンガ、小説、そして短い動画」の二次創作を見たことがあるけど、自分が「その創作細胞（創作の才能）がない」ので、二次創作をしたことがないと語った。

以上のように、日本語の勉強、メイクやヘアスタイルの学習などは学校から勉強できないから、インフォーマル学習として、Eさんのファン活動で存在していることが考察できる。

#### 3.2.5.3 同人文化・CP文化への態度について

Eさんは「特に推していることじゃなくて、ただ好きなコンビがいる」と語ってくれた。このコンビが好きになって、継続的に応援している理由を、彼女は以下のように語った。

---

嵐の二宮 x 相葉の「ニノアイ」というコンビと King & Prince の平野 x 永瀬の「ショウレン」というコンビが好き。嵐の二人はよくただのアイドルの同僚でプライベートでの交流がないと言われるけど、この二人は本当に仲良いと思って、プライベートでも一緒にご飯を食べて行ったことがあるので、この逆さが好き。

(継続的に応援している理由?)

嵐の活動を停止しでも、二人が必ず会い続けて、二人だけの物語があると思ったけど、一人がもう結婚しているから、もう応援したくない。(笑)

(逆CP/他のCPについてどう思うのか)

理解するけどほとんど見ない。気持ち悪くなるから、見たくない。

---

そして、LGBT への態度は「高校と大学生時代に実際に会ったことがある。だから差別はしないし、尊重している。」と語った。

また、Eさんは同人文化、CP文化について、「他人の創作を見たいから、支持している」と語っており、ジャニーズを理解する前、アニメでBLが知ってきた。そして、BLはLGBTの友であると思ったことがわかる。

### 3.2.5.4 調査対象者のライフストーリーについて

#### (1) 恋愛経験について

Eさんは恋愛した経験があるが、現在アイドル以外も含めた誰かに恋していることはないと言った。他方、実際の恋愛対象の選択について、Eさんは以下のように語った。

---

今は年下がいい。自分ももう歳を重ねてきたので、だんだん年下の子の可愛さが見える。元々そういう好みはないけど、今は年下の子が可愛いと思う。自分が甘やかしたい、この子を守りたい感じ。

---

これを見ると、実際に恋愛対象的に見ているだけだが、同担拒否をしないということやEさんがリーダーを務めるファンコミュニティを作った立場上、そういったことは言えないことが推察される。これは前の King & Prince のそれと似たような証言として捉えられる。

また、「今までの恋愛関係に対する態度あるいは評価」の問いについて、Eさんは「結局はダメ。ほぼ言う価値がない普通の恋愛だった」と語った。

このことから、Eさんは現在、嵐についてはファンという扱いで、恋愛感情がほぼないが、King & Prince に対して、恋愛要素があるので、疑似恋愛のようなものが存在する。だからこそコンサートに行く時、嵐と King & Prince に差が生じているという可能性がある。

#### (2) 学校生活について

Eさんは現在、日本の大学院で社会学を勉強している。彼女は小中高校の生徒時代を振り返って、以下のように語った。

---

高校時代はすごく楽しかったけど、後悔していることがたくさんある。例えば、どうしてデートしなかったか、どうして見た目はそんな風になったか。もしスタイルがもっと良くなったら、もっといい高校時代になれると思う。その時期はもうはっきり覚えていない。女子高校だから、毎日女の子とイチャイチャしているね (笑)

---

Eさんは小中のスクールカーストが上位であったと思うが、高校の時は中間以上くらいと語った。そして、高校は女子高校だから、かなりゆとりがあり、高校での課外活動では演技、あとは花生けを勉強した。

また、ジャニーズを好きなことに対する周囲の評価や「ジャニオタ」のcomingアウトについては、Eさんは以下のように語った。

---

高校の時はみんな女子だから、すごく理解できる。大学時代は同じ寮で住んでいる人だけ、私がこのジャニーズが好きということを知っている。他の人はそもそもジャニーズという存在も知らない人が多いので、特に評価がない。

私はもうジャニオタだから、もし他の人がそのことを言っていたら、親しいと感じる。しかし、恥ずかしいから、自分がそういう話を絶対話せない。普段、私がジャニーズが好きと言ったら、面喰い女と思われるから、その話を自分から言うのはない。

---

また、Eさんは大学時、アルバイトを一回しかやっていないと語った。

### (3) 家庭教育について

Eさんの家族でお小遣いは月定額制ではないと語った。買い物に行ったとき、もし両親と一緒に買い物に行く場合は、Eさんはほぼ支払わない。そして、高いものを親が支払って、飲み物などはEさんが支払う。ジャニーズのものはほぼEさん自身で支払うけど、「クレジットカードが必要の場合、親のコピーカードを使うこともある」と語った。

そして、Eさんのファンコミュニティについて、Eさんの「お母さんが知っているけど、お父さんは知らない」と語った。ファン活動について、Eさんのお母さんはかなり支持しているし、Eさんと「一緒にうちわを作ったこともある」と語った。

また、「両親の感情は自分の身に引き付けて考えるなら模範として良い例として取られているか、悪い例として取られているか」という問いについて、2人はもう別れているので、悪い例として取られているほうが多いと語った。

### 3.2.6 Fさん

Fさんは、インタビューした時24才で、大学院3年の中国人女性である。2008年から、嵐というジャニーズアイドルが好きになり初め、ジャニーズファン歴は12年である。

#### 3.2.6.1 ジャニーズグループやタレントについて

Fさんは好きなジャニーズグループは嵐が、一番推しなのは櫻井翔である。このジャニーズが好きになったきっかけは、上海ラジオ局のとある番組で「嵐の曲を聞いたこと」で、嵐に完全に夢中になっている原因は、「嵐の宿題くん」という番組を見たことと語った。

---

きっかけは嵐の曲を聞いたことだ。私はいつもラジオを聴いていた。当時は2008年かな、日本の歌曲をよく放送していた上海ラジオ局のとある番組も聴いていた。そして、たまたまその番組で嵐の「Beautiful days」を聴いて、結構いい曲だと思った。その番組がよく嵐の曲を放送していたので、段々と私が「このグループの曲はいいね、このグループ自身もいいかもしれない」と思って、嵐が好きになった。

その後、嵐に完全に夢中になっている原因は、「嵐の宿題くん」という番組を見たことだ。あの時、その番組のクリップを見て、とても楽しかった。彼らがいわゆるアイドルとは全然違うと思って、とても面白い。そして、それから嵐がずっと好きだ。

(どこであの番組のクリップを見たか)

Tudouという中国動画サイトを覚えているが、当時、嵐がどんなアイドルグループなのか知りたくてさりげなく検索していた。そのときファンが編集した動画が多かったので、ちょっと見ただけで、止まらなくなった、とても面白かった。そして、よく見ていたので、最初に嵐の印象がとても面白かった、いわゆる雑誌のようなカッコいいタイプではない。

---

そして、Fさんがジャニーズアイドルはジャニーズ以外のアイドルと比べて、優れている点について以下のように話している。

---

実は、ジャニーズ以外のアイドルグループのことはあまり知らないのですが、比較とかは言えないね。でも、ジャニーズのグループはファンに親しい傾向があるかもしれないと感じている。

---

このように、嵐の印象がとても面白かった、いわゆる雑誌のようなカッコいいタイプではないと強調し、ジャニーズのグループはファンに親しいかもしれないと語った。

また、推し変について、以下のように語った。

---

正直、私は年上や年下の理由で推し変になることはない。なぜなら、私は推したいアイドルをいったん

決定したら、一般的にこのような変化がない。嵐が好きになった後、彼らと交流していたジャニーズの先輩、後輩を見ていいと思ったけど、嵐以外のジャニーズに好きになったことは一切ない。私は感情に一途なタイプだ。そして、推し変になるかどうかはやはり個人的な理由によると思う。より広い範囲を好む人もいるし、より一途な人もいる。

---

以上のように、Fさんは、ジャニーズアイドルがいわゆるアイドルと全然違い、とても面白いと語っており、推したいアイドルをいったん決定したら、一般的に推し変がないことがわかる。

### 3.2.6.2 ジャニーズファンコミュニティ・ファン活動につて

#### (1) ファン同士との交流

Fさんはウェイボーとツイッターなどの SNS を使ってファン同士と交流することもあるし、現実でファン同士と会うこともある。具体的な交流方式について、以下のように語った。

---

これは状況によって違う。オンランで交流することもあるし、現実で会うこともある。自分のジャニーズファン同士がほぼウェイボーで知り合った。ウェイボーでお互いのアカウントをフォローしてチャットした。そして、現実で会った人もいくついる。現在も連絡している人はほぼ以前現実で会った人。でもみんなの関係はただの嵐もファン同士だけじゃなくて、すでに現実生活の友達になっている。食事に行く時、みんな話すことは嵐やジャニーズだけではなく、自分の生活や仕事なども話題になる。つまり、ジャニーズと嵐をきっかけとして、生活の友達を作ることができた。

(現場で他のファンと交流したことがあるか)

ない。一緒に見に行く友達に限り交流するかも。他のファンと交流することは絶対無理。周りのファンの年齢が何十代か、顔がどうかを現場で友達と話すことがあるね。例えば、周りのファンの見た目がすごく綺麗な若い女の子か、おばさんみたいか、あるいは、可愛い子供かどうか。

---

Fさんは時期によって、参加した嵐のファンコミュニティの規模や性質の区別は以下のように語った。

---

嵐が好きになった3年目、4年目の時、参加したことがある。ほぼネットでの活動とコミュニティ。でも何回参加した後、このコミュニティが自分想像したものとは違っていたから退会した。自分が想像したファンコミュニティはみんな楽しくて嵐のことを話せる場所だ。でも、参加したファンコミュニティのみんな、そんなに仲良くない、推しメンバーにより、比較の気持ちも強かった。そして、私がこのファンコミュニティから退出して、友達限定の小さいコミュニティで活動している。

ネットでのファンコミュニティは100人くらいかな、女性が多い、年齢は15才~35才くらい。

自分の小さいコミュニティの人数3~5人くらい。全員が私より年上の30代女性。なんか自分が知り合ったファンはほぼ年上の人。

---

以上のように、Fさんは「友達を作りたい」ので、ジャニーズのファンコミュニティに参加していて、ファン同士と「相手の相性が良くて、話せる話題もたくさんある」なら、関係を維持したいと語った。つまり、Fさんにとって、ファン同士との付き合いはお互いの「価値観」や「雰囲気」の合致を重視し、推しが誰かなどはほぼ関係ないことが考察できる。

また、Fさんはオフラインのファンコミュニティで「平等に付き合った方がいい」と考えたが、オンラインのファンコミュニティで「他人の目線を引きつけない」ので、フォロワーになりたいと語った。

## (2) 同担拒否について

「コンサート会場が指定席等で席を変更できない場合、隣の人が同じジャニーズの個人を応援するグッズを持っていたときどう思うか」の質問について、Fさんは以下のように語った。

---

そんな人にはあったことがないけど、自分がその状況でどうなるのかを想像したことがある。比較の心理じゃないと思うけど、確かにその人が作ったうちわが自分のより良いかどうか、相手の服やヘアスタイルやメイクなど自分のよりきれいかどうかを考えるかもしれない。ライバルと会ったような感じ。

---

また、Fさんは同担拒否という行為が許されるし、「どうでもいい」と感じている。しかし、一時期に、Fさんは同担を拒否した。同担拒否や今拒否しない理由については以下のように語った。

---

実際、私もそれを自分で理解することはできない。自分と親しい人やウェイボーで知り合った人の中で、櫻井翔のファンがほぼいない。

最初に嵐が好きになった時、情報共有できるので、フォロワー数が多い櫻井翔ファンのアカウントをフォローしたが、他の櫻井翔ファンと友達になったことは本当はない。自分が一番フォローしたのは松本潤のファンだ。なぜなら、自分が翔潤のCPファンだ(笑)

以前、同担と話す時、たくさん話題があるけど、やはり同担にライバルとしての気持ちがあるので、自分が好きなアイドルは他人と共有したくない。いいものは自分が独占したい。でも、現在は自分も年を重ねて、以前のような熱も無くなって、こんな気持ちがない。

---

このあと、「アイドルに恋愛感情を持っているか」という問いについて、Fさんは「持っているけど、この感情が以前より弱くなっている。」と答え、「櫻井翔は私が好む良い点をいっぱい持っていて、自分の彼氏もこの良い点を持っていてほしい。でも、これは櫻井翔が自分の彼氏になるという意味じゃない」と語った。

以上のように、Fさんは、ジャニーズに恋愛感情を持っているだけではなく、現実での恋愛関係にもジャニーズからの影響を受けていると考えられる。

### (3) ファン活動について

「どういう方式で応援するか」という問いに対して、Fさんは「お金を出して応援する」と答えた。具体的な応援活動や準備、学んだことは以下のように語った。

---

グッズを買う。私は買う機会が本当に多い、雑誌とか、アルバムとか、部屋にいっぱいある。なんか、グッズを買うのは好きなアイドルを応援することだけじゃなく、アイドルがファンにくれた記念品だと思う。ファンとしての何十年の青春を記念できるもの。やはりアイドルにお金を使うことが楽しい。

(他の人におすすめしたことがあるか?)

ある。言葉ですすめた。もし相手が興味があったら、ライブやバラエティ番組名を見せてあげる。

(今までどのくらいお金をかけているか)

何十万円もあるかも。

(この応援ができるためにどの準備をするか)

しっかり勉強、しっかり貯金。あとは日本語の勉強。嵐の歌やドラマをみて、日本語もわかって話せるようになった。日本語の能力が上がると思う。

---

また、Fさんは、同人小説の二次創作を「結構読む」と、「他には漫画やファンから編集した動画」を見たこともあると語っており、Fさん自身も「動画編集」という二次創作をしたことがあると話している。

以上のように、Fさんはファン活動を通じて、日本語能力が上がることや、動画編集のテクニック、および交際能力も以前より上がることなど、インフォーマル学習に相当する事柄が存在すると考察できる。

#### 3.2.6.3 同人文化・CP文化への態度について

Fさんは「櫻井翔 x 松本潤と相葉雅紀 x 二宮和也」というCPが好きだと語ってくれた。このCPが好きになり、継続的に応援している理由は、「二人が一緒にいる画面が好き。二人がお互いに交流するのがとても可愛い、自分の気持ちが良くなる」と語った。

そして、「逆 CP/他の CP についてどう思うか」の問いについて、彼女は以下のように語った。

---

これは時期によって違う。嵐が好きになった第 3、4 年目、つまり前期の私は CP 潔癖症<sup>27</sup>があったので、他の CP が一緒に画面に出ることがちょっと嫌だった。でも、しばらく時間が経って、自分の考え方が変わった。以前の自分がとても愚かだなと思って、この五人が一緒にいるだけでもいい。

---

また、F さんは同人文化、CP 文化について、「これはアイドルに表れた愛の形と思う。でも、やり過ぎるのはダメ。現実と妄想は必ずはっきり分ける。自分の妄想は同人小説や同人作品に限った方がいい」と語っており、ジャニーズを理解する前に BL を知っていた。そして、BL は LBGT の友と思ったことがわかる。

### 3.2.6.4 調査対象者のライフストーリーについて

#### (1) 恋愛経験について

F さんは恋愛したことがあって、経験した恋愛関係に対して、「自分の選択が正しいと思う。その恋愛は自分の期待や目標を達成した」と評価した。他方、実際の恋愛対象の選択について、F さんは以下のように語った。

---

(憧れる恋愛像は何か)

具体的はないけど、最近の日本ドラマを見て、年下の男の子がいいと思う。

(実際の恋愛対象としては、日常で会うことが容易な男子とジャニーズとでどちらが優位か)

日常での男子がいい。ジャニーズの若子が自分のタイプじゃない。やはり年上のジャニーズが好き。

(自分の恋人についても、年上嗜好なのか年下でもいいのか)

年下の方がいい。

---

これを見ると、実際の恋愛対象と好きなジャニーズタイプの考えには矛盾が存在する。つまり、F さんにとって、アイドルへの恋愛感情と自身現実での恋愛関係は 2 つの独立のものと捉えできる。

#### (2) 学校生活について

F さんは現在、中国の大学院でフランス語を勉強している。彼女の学生時代と振り返って、

---

<sup>27</sup> 自分が好きな CP だけを受け入れること

以下のように語った。

---

後悔したことはないけど、やはりもっと熱心に勉強した方がいいと思う。自分の学校生活はけっこう楽しいし、落ち込みの気持ちも無いので、勉強はそんなに重視しなかった。(中略)

学生組織に参加したことはないけど、サークルなんかはある。サークルでは副部長を務めていた。リーダーなんかは勤めたくないの、サークルでも透明人間みたいな存在。

(このサークルは何のサークルか)

高校は英語劇団、大学はボランティアサークル

(高校と大学での正課での勉強したことは何か)

高校は文系なので、国文、数学と英語以外、社会科目も勉強しなければならない。大学の専攻はフランス語なので、全部フランス語の精読や翻訳、フランス歴史などに関わる正課だ。

(高校と大学での課外活動での勉強したことは何か)

課外活動で、ボランティアとして、コミュニケーションと仕事の能力を獲得した。

---

Fさんは小中高のスクールカーストが中間以上と語った。そして、中学は学力の高い学校だが、「高校はゆとり教育の学校。勉強以外のことも、例えば文化、芸術、人柄など、学生の全面的な能力を育てる」と話している。

また、ジャニーズが好きなことに対する周囲の評価や「ジャニオタ」のcomingアウトについては、Fさんは以下のように語った。

---

高校の時、周りの人は日本のアイドルや韓国のアイドルが好きだったから、お互いに好きなアイドルについて交流した。けっこう平和な雰囲気だった。でも大学時代、周りの人は日韓アイドルのことが詳しくなかったけど、私が好きなアイドルグループがいることが知っていた。これについて彼らはけっこう普通を感じて、時々私のもとから嵐のことを聞いた

---

また、Fさんは大学時、アルバイトをしたことがないと語った。

これを見ると、Fさんは他の中国人調査対象者より、部活経験が豊富なので、ファン活動での人間関係の構築をより重視することが推測できる。

### (3) 家庭教育について

Fさんの家庭活動は普通に旅行や食事を行っている。家庭での交流は対面のコミュニケーションが多いと語った。

また、Fさんはお小遣いをもらったことがない、「現在も、大学院からもらった奨学金や毎月の補助金、そして毎年のお歳玉も加えて、貯金がそんなに多くないけど、すでに経済的

に独立した。修士になって以後、家からお金をもらったことはない」と語った。

Fさんのファンコミュニティやファン活動について、Fさんの家族の考え方は以下のように語った。

---

コミュニティの活動はそんなに多くない。普段、ただ食事に行くことが多いので、親も何も言わない。日本にコンサートを見に行った時、彼らが「また行くの？」という文句をいったけど、阻止したことがない。グッズを買った時も同じ、「またそんなたくさんグッズを買ったの？」の文句を言っただけ。そういえば、この前、うちの母さんが私の部屋のグッズを整理したがった。でも本当に怖かったので、はっきり断った。

(なぜ怖かった？)

なんかジャニーズのグッズの値段は安くないので、もし彼らが値段高いグッズがそんなに多く買ったことを知ったら、ちょっとやばくなるかも。

---

また、「両親の感情は自分の身に引き付けて考えるなら模範として良い例として取られているか、悪い例として取られているか」という問いについて、Fさんは「この2つの言葉で彼らの関係をいうことはダメだ」と、「総体的に良い例」と語った。

### 3.2.7 Gさん

Gさんは、インタビューした時28才で、金融機関でコンサルタントと勤めている中国人女性である。2017年から、嵐が好きになり初め、ジャニーズファン歴は3年である

#### 3.2.7.1 ジャニーズグループやタレントについて

Gさんは一番好きなジャニーズアイドルは嵐である。このジャニーズが好きになったきっかけと理由については以下のように語った。

---

日本を旅行したとき、大阪の戎橋で嵐の二宮和也の巨大なポスターを見て、一目惚れした。中国に帰国後、友人から二宮が出演していた「流星の絆」という日本のドラマが勧められて、このドラマを見たあと、嵐が好きになって、嵐の番組以外、メンバーが出演したドラマも含めて見たり、彼らのコンサートを見に行ったりする。

---

そして、Gさんがジャニーズ以外のアイドルやプロダクションと比べて、優れている点について以下のように話している。

---

ジャニーズアイドルは優れている点が2つある。1つはアイドルとしての業務能力が高いということ。ジャニーズアイドルのコンサートでの歌、踊り、舞台の表現などはファンにとって非常に魅力的だ。もう1つは、韓国や中国のアイドルグループと比較して、ジャニーズのアイドルグループの活動期間がすごく長いこと。お互いに支え合っている感覚がとても魅力的だ。ファンも彼らがアイドル活動の中で変わっていくもの、変わらないものを見ることができる。

ジャニーズはすごく偉い会社だ。ジャニーズの子たちに投入した精力や資源および彼らへの育成支援の提供がとても多い。ジャニーズ事務所自身も独自のこだわりや美学理念がある。

---

以上のように、Gさんはジャニーズがアイドルとしての能力が強いと認められ、メンバーと一緒に成長すること、変化することがはっきり見えると語っており、これはジャニーズの独自性であると捉えられている。

#### 3.2.7.2 ジャニーズファンコミュニティ・ファン活動について

##### (1) ファン同士との交流

Gさんが嵐のコンサートに参加したのは嵐 5×20「5x20」<sup>28</sup>のコンサート、この一回しかないと言った。当時、ネットで知り合った友達と一緒に見に行き、現場で他の人とはあまり交流はせず、「自分達の話をしているだけ」と語った。話した内容はほぼ嵐やコンサートに関することである。

Gさんは「ファン同士との交流がどういうふうに進捗するか」の問いについて、以下のよう

---

に語った。

ネットでの交流が多い。オンラインのファンコミュニティでいろんな情報を提供し、獲得することがある。個人的にオフラインの場所でオンラインの知り合いと会うことはしない。ファン同士の関係を維持するかどうかはどうでもいいと感じ、なぜなら、自分がオンラインのファンコミュニティに参加するのは情報獲得と必要な場合にすぐ人が探せるからだ。そして、他人から情報を受けた方が多くて、自身からの発信はあまりない。オフラインのファンコミュニティには参加したことがない

---

以上のように、Gさんは情報を獲得するため、ジャニーズのファンコミュニティに参加して、ファン同士との関係の維持はどうでもいいと言った。つまり、Gさんにとって、ファン同士との人間関係の作りより、情報を獲得する方が重要だと考えられる。

また、Gさんはオンラインのファンコミュニティではフォロワーになりたいが、オフラインのファンコミュニティはリーダーになりたいと言った。

## (2) 同担拒否について

「コンサート会場が指定席等で席を変更できない場合、隣の人が同じジャニーズの個人を応援するグッズを持っていたときどう思うか」の質問について、Gさんは「いいじゃないか」と語ってくれた。

また、Gさんは同担拒否という行為が許されるし、「どうでもいい」と感じているが、推し以外の他のメンバーの悪口を言う同担については拒否すると語った。

---

(「同担拒否」についてどう思うのか)

自分はそういう思いがないけど、同担がいることはいいじゃないかと思う。しかし、推し以外の他のメンバーの悪口を言う同担は拒否する。

(同担拒否が許されるかどうか)

許される。他の人の考えなので自分はどうでもいい

---

このあとの、「アイドルに恋愛感情を持っているか」という問いについて、Gさんは「持っている」と答え、「ジャニーズのような完璧な彼氏がいい」と語った。

---

<sup>28</sup> 嵐は2018年11月から2019年12月まで開催された、嵐デビュー20周年のアニバーサリーツアー「ARASHI Anniversary Tour 5x20」ということ

以上のように、Gさんは、同担拒否の基準はアイドルに対する恋愛感情ではなく、ファンとしてのマナーについてであると考察できる。

### (3) ファン活動について

「どういう方式で応援するか」という問いに対して、Gさんは「お金を出す」と答えた。具体的な応援活動や準備、学んだことは以下のように語った。

---

(どういう方式で応援するか)

お金を出すこと。コンサートのDVD、CD、グッズ、雑誌などを買う。

(他の人にすすめたことがあるか？どういう方式で？)

勧めたことがある。嵐の動画を見せあげるとか。

(今までどのくらいお金をかけているか)

15万円くらいかな。

(ファン活動で自分は何を勉強できたと思うか)

嵐が好きになった後、嵐のDVDや番組をみて、日本語を勉強しているし、動画編集のテクニックもだんだんと身につけている。

---

また、Gさんは、マンガ、小説、動画の二次創作を見たことがあるし、「ファンで作ったゲームなど」を遊んだこともあると語っており、Gさん自身も「動画編集」という二次創作をしたことがあると話している。そして、この二次創作物について、「BLの要素もなく、他のファンのための編集はしていない。ただ彼の演技力は良いと思い、自分の記念として動画を編集した」と語った。

以上のように、Gさんはファン活動を通じて、日本語の勉強、動画編集のテクニックなどのインフォーマル学習相当することが存在すると考えられる。

#### 3.2.7.3 同人文化・CP文化への態度について

Gさんは「櫻井翔 x 松本潤」というコンビが好きだと語ってくれた。このコンビが好きな理由は、「この2人が交流しているときの雰囲気が好き。小さい頃から大人になるまで、彼らの絆やお互い支えあっているところがとても好き」と語った。一方で、Gさんは「(櫻井と松本という)好きなコンビの間で恋愛関係があることを期待したり見出したりはしていない。」と語った。

そして、「逆CP/他のCPについてどう思うか」の問いについて、彼女は「この5人ならば、どうでもいい」と語った。

また、Gさんは同人文化、CP文化について、「ファンを喜ばせるものだ」と語っており、BLやLGBTという着眼には特に無関心な様子で語った。

以上のように、Gさんはジャニーズコンビの間で存在するものとして、恋愛感情ではなく、成長の絆をより重視しており、BLとの繋がりは薄いと考えていることから、BLやLGBTへの関心度は比較的低い可能性がある。

### 3.2.7.4 調査対象者のライフストーリーについて

#### (1) 恋愛経験について

Gさんは恋愛したことがあって、経験した恋愛関係に対して、「悲しい恋愛」と評価した。他方、実際の恋愛対象の選択について、Gさんは「ジャニーズのような完璧な彼氏がいい」とし、自分の恋人は自分より年上の方がいいと語った。

#### (2) 学校と社会生活について

Gさんは学生時代で学生組織に参加して、リーダーの役を務めて、組織を管理していた経験がある。そして、Gさんは自分の小中高のスクールカーストが上位にいたと話しており、「一部の授業や課外活動での表現能力が強かった」と語った。

また、社会人がジャニーズを好むことに対する周囲の評価や「ジャニオタ」のコミングアウトについては、Gさんは以下のように語った。

---

これについて周りの人は自分の行動に責任を持てばいいと思っている。いい趣味を持っていると思われ、前向きなエネルギーを得ることができるのでいいと思う。

「ジャニオタ」のコミングアウトについては、特に隠そうと思ったことはない。

---

これを見ると、Gさんは社会人として、ファン活動をするときの「責任」を重視することが推測できる。

#### (3) 家庭教育について

Gさんの家庭は普通に家庭内の食事とか、映画を見に行くとか、時間があれば家族旅行も行っている。家庭交流は以前1人暮らしの時は少なかったが、現在、両親と一緒に住んでいて、対面のコミュニケーションが多くなっていると語った。Gさんの両親はGさんのファンコミュニティの存在を知っているが、Gさんのファン活動について反対しないと語った。

また、「両親の感情は自分の身に引き付けて考えるなら模範として良い例として取られているか、悪い例として取られているか」という問いについて、Gさんは「悪い例の程じゃないけど、そんなにいい例でもない」と語った。

### 3.2.8 Hさん

Hさんは、インタビューした時34才で、旅行会社の会社員を勤めている中国人女性である。1990年代末から、KinKi Kidsの堂本光一が好きになりはじめ、ジャニーズファン歴は20年以上である

#### 3.2.8.1 ジャニーズグループやタレントについて

Hさんは一番好きなジャニーズアイドルは堂本光一である。このジャニーズが好きになったきっかけと理由を以下のように語った。

---

好きな理由は顔だ。小さい時、姉さんが日本で買ってきたグラフで堂本光一の顔を見て、かっこいいと思って、好きになった。

---

そして、Hさんはジャニーズがジャニーズ以外のアイドルやプロダクションと比べて、優れている点について以下のように話している。

---

ジャニーズアイドルはなんでもできる、雑技団のような存在だと思う。そして、ジャニーズアイドルは仕事とプライベートをはっきり分けて、仕事をしているときは夢を売るアイドルが、プライベートなときはやりたいことがあればなんでもできる。例えば、釣りに行きたいときは釣りに行って、バーに行きたいときはバーに行く。堂本光一はリアル派アイドルで、「ライブが終わったら、俺たちは一刀両断だ、お前はお前の世界に帰れ、俺は俺の世界に帰れ」などと現実的なことを言ったことがある。

他の会社のように、夢を売るためには現実や仕事をどうしなければいけないのか、年下のアイドルにまで考えさせているわけではない。ジャニーズのアイドルの中には、すべてをハッキリ言うのが仕事だ。

---

以上のように、Hさんはジャニーズアイドルがなんでもできると考えていて、仕事とプライベートをはっきり分けていることがジャニーズの独自性と捉えられている。

#### 3.2.8.2 ジャニーズファンコミュニティ・ファン活動について

##### (1) ファン同士との交流

HさんはKinKi Kidsのコンサートを参加したことがないと答え、ファン同士との交流はほぼオフラインで行うと語った。

---

私たちは実際に、お互いを紹介し、知り合いになって後で会うという形でお互いを知るようになる。インターネットを通じて他の人と知り合うことがほばない。

---

また、Hさんオフラインのファンコミュニティでリーダーとして活動しているが、実際にフォロワーになりたいと語った。

## (2) 同担拒否について

Hさんは同担拒否という行為が理解できない、同担を拒否しないと語った。このあと、「アイドルに恋愛感情を持っているか」という問いについて、Hさんは推しが「リアル派アイドル」なので、彼に恋愛感情を「持っていない」と答え、「現実で堂本光一みたい男は絶対一生に独身だと思う」と語った。

以上のように、Hさんの周りに「堂本光一が好きな人が自分しかない」ので、「一緒に堂本光一のことを話せる同担がとてもほしい」。それに加えて、堂本光一への恋愛感情がないので、同担拒否をしないと考察できる。

## (3) ファン活動について

「どういう方式で応援するか」という問いに対して、Hさんは「グッズを買う」と答えた。具体的な準備は以下のように語った。

---

(今までどのくらいお金をかけているか)

具体的な金額は覚えていないが、かなり高い。

(この応援をするためにどの準備をするか)

お金と関係ない、購入ルートを探すとか。

---

また、Hさんは、ファンの堂本光一の誕生日を祝うため編集した動画を結構見たことがあると語っており、Hさん自身もその「動画編集」という二次創作をしたことがあると話している。そして、二次創作は、「この一年間の記念」として創作したと語った。

以上のように、Hさんはファン活動を通じて、情報収集の能力、動画編集のテクニックなどの学習行為に相当するものが存在すると考えられる。

### 3.2.8.3 同人文化・CP文化への態度について

Hさんは好きなCPがない、同人文化、CP文化について、「あまり好きではない」と語ったけど、「ジャニーズが腐女子に媚びたことが結構みられると、現実でLGBTの人と会っても普通に受け入れられる」とも話している。また、HさんはLGBTへの態度は「現実であったことがある。すごいじゃないかを感じる。」

Hさんの場合には、LGBTに肯定的であるとはっきり言うにも関わらず、ジャニーズCPに対する受容度が低くて、ジャニーズCPへの受容度の高さがあくまでも文化というのか、ジャニーズファンの一つの流儀というのか、マニエールというのか、文化、カルチャーのようなものであって、それは直接にLGBTの肯定していることと結びつくものではないと考えられる。

### 3.2.8.4 調査対象者のライフストーリーについて

#### (1) 恋愛経験について

Hさんは過去、恋愛したことがある。他方、実際の恋愛対象の選択について、Hさんは「彼氏と交際した後、堂本光一みたいな男は絶対一生に独身だと思う」と、日常で会いやすい男子の方がいいと語った。

#### (2) 学校と社会生活について

Hさんは学生時代にダンス社に参加して、学校のイベントにも参加したことがある。そして、Hさんは自分の小中高のスクールカーストは下位だったと語った。

また、Hさんはジャニーズを好きなことに対する周囲の評価は「あまり評価は受けない、どうでもいい」と答え、「ジャニオタ」のカミングアウトについては、「恥ずかしくない」と語った。

#### (3) 家庭教育について

Hさんは家庭でお小遣いもらったことがあるが、定額ではないと語っており、「お爺さんがいつも私のお小遣い箱にお金を入れるので、足りない時はない」と話している。

Hさんの両親はHさんのファンコミュニティの存在を知っているし、ファン活動に反対しないと語った。

また、「両親の感情は自分の身に引き付けて考えるなら模範として良い例として取られているか、悪い例として取られているか」という問いについて、Hさんは「いい例と思わないが、悪い例も思わない」と語った。

## 第4章 考察

### 4.1 ジャニーズアイドルとインフォーマル学習の関連

#### 4.1.1 ジャニーズアイドルの様々な側面を注目

調査対象者の多くはジャニーズのアイドル以外の方面にも注目していると語った。

---

- A (中) : 何をやってもかっこいい (司会、芸術)
  - B (中) : コンサートで特技、アクロバティックな演出をしたことは他のグループと違う
  - C (中) : アイドルらしい役だけではなく、アイドルとほぼ関係ないこともやっていることが好き
  - E (中) : いろんな領域 (番組、歌、ダンスなど) で活動をしていることが優れる
  - F (中) : いわゆるアイドルと全然違うと思って、とても面白い
  - H (中) : なんでもできる、雑技団のような存在。
- 

以上より、ジャニーズアイドルが様々な活動を行っていることから、これに注目しているジャニーズファンは多くの分野について学習できる機会が他のアイドルファンと比べて非常に多いと思われる。

#### 4.1.2 アイドルの成長と絆に注目している

調査対象者の多くはジャニーズの独自性としてアイドルの成長がみえる点を強調した。

---

- A (中) : 小さい頃から、彼らもテレビに出て、皆の目の前ですごく優秀な大人になった
  - B (中) : ジャニーズのアイドルは若い時にデビューして、ファンにその成長し続ける姿を見せてくれる
  - C (中) : 少年からの絆は今でも存在し、グループ活動で表せる
  - D (目) : ジャニーズ Jr. の頃から、10代とか、幼い頃からずっと一緒にやってきた子たちがグループとして組んでいる
  - G (中) : メンバーと一緒に成長すること、変化することがはっきり見える
- 

彼らはアイドルの実年齢と関係なく、ジャニーズアイドルの成長や少年らしさの維持や絆に注目している。これは、自分の成長の鏡写しである可能性が理由として挙げられる。調査協力者のAさん、Bさん、Eさん、Fさん、Hさんは自分の学生時代について後悔や心残りがあると明確に語った。

Bandura によって提案された認知的社会学習理論<sup>29</sup>は、観察学習が社会学習の最も重要な形態であることを強調している。その中で、個人は他人の行動を見たり、読んだり、聞いたりすることで学ぶことができると指摘した。この点から見ると、中国のジャニーズファンの中で、自分の青春生活に不満、後悔および残念を持っている人がアイドルの成長に注目して、ファン自身の成長の鏡写しと不満の補足であると考えて、ファン活動をする時思わずに学習行為を進行する可能性がある。

## 4.2 ファンコミュニティとインフォーマル学習

### 4.2.1 日中ジャニーズファンが同担に対する態度の差

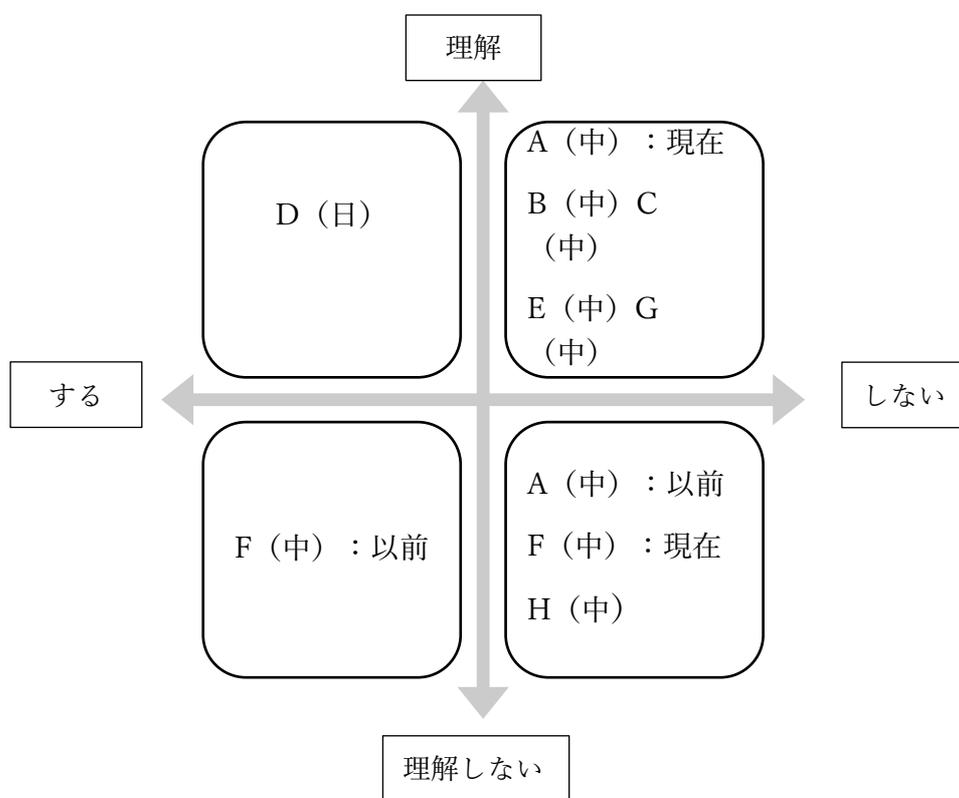


図1 同担拒否に関するマトリクス

8人の調査対象の中で、Aさん（現在）、Bさん、Cさん、Eさん及びGさん、つまり、半数以上の中国人が同担拒否を理解するけど自分がそういう行為をしない。一方、ファン歴が長い（10年以上）中国ジャニーズファンのAさん（以前）、Fさん、Hさんが同担拒否を理解しないことがわかった。一方で、日本人のDさんの場合は同担拒否という行為を理解しつ

<sup>29</sup> 社会的学習理論（モデリング理論）とは？他者の行動を観察・模倣する学習を具体例で解説。

<https://theory.work/terms-social-learning-theory/>, (参照 2020-12-31)

つすることもあるという。

そして、ファンコミュニティへ参加する理由について、中国ファンの場合は情報を獲得するためと語った人が多い。

---

ファンコミュニティに参加する理由：

- ・公式情報の獲得、ファン同士との交流

→A (中)、B (中)、C (中)、E (中)、G (中)、H (中)

- ・ファン同士との交流

→D (日)、F (中)

---

これらの結果と見ると、中国のジャニーズファンは日本のファンと比べて、ジャニーズに関する情報量が圧倒的に不足しているので、同担に寛容であり、ファン同士と同担拒否せず、協力し合いながらファンコミュニティへ貢献していると考察できる。

- 
- ・同担がいることに喜ぶ

→B (中)、H (中)

- ・問題行動がない同担を受け入れる

→ A (中)、C (中)、E (中)

- ・中国のファンコミュニティの現状から渋々、同担を受け入れる

→G (中)

- ・以前同担拒否した経験がある

→F (中)

---

以上が示すように、多くは同担を受け入れている。例えばGさんは同担拒否をしたい気持ちと言葉の端々から伺われつつも、同担受容すると答えている。このGさんの語りに典型的に現れているように、そうせざるを得ないほどの情報不足を背景とし、同担受容の文化が構築されているものと推察される。

そして、中国のジャニーズファンに「ファンコミュニティでリーダーとフォロワー、どちらになりたいか」と尋ねたところ、「フォロワーになりたい」という人が多い。フォロワーの場合、情報共有にあたり、自分が情報発信者より、受け手の方になりたい気持ちが強い。これはインフォーマル学習面では、他人から知識や情報をもたらすような、フォロワーの方が自分が知識が増えるということになる。したがってインフォーマル学習への意識が高いと判断できる。よって、ファンコミュニティへの貢献意識が強ければ、インフォーマル学習への意識も高くなると考えられる。

そして、中国でジャニーズに関する情報量が少ない中、ファンコミュニティで積極的に活

動する人が多いこともわかる。特に G さんは「自分はファンコミュニティに参加したくない。ちょっと面倒くさい」と思っていたが、実際に情報獲得と必要な場合にすぐ人が探せるために、ファンコミュニティを参加している。

また、中国のファンは、ジャニーズに似た男性を恋愛対象とすることはあっても、ジャニーズアイドル自身を疑似恋愛の対象とする人はほぼいなかった。これと見ると、中国のファンはジャニーズへの気持ちは自分の恋愛態度に反映できるだろうし、このことも同担受容する大きな理由であろう。

#### 4.2.2 セグメント化しない中国ジャニーズファンコミュニティ

本研究で、多くの調査対象者が参加したファンコミュニティはメンバー個人のコミュニティではなく、他の推しもいるファンコミュニティであることがわかった。この結果から見ると、中国ジャニーズファンは日本のジャニーズファンファンと比べ、情報入手がより困難なので、情報獲得範囲を広げるために、ファンコミュニティのファン成分は細かく区別しないと考えられる。

#### 4.3 多様なインフォーマル学習成果

今回の調査によって、中国のジャニーズファンコミュニティでインフォーマル学習の成果の表れは主に①情報獲得②言語学習③LGBT への受容度が高い④二次創作の意欲が高いということがわかった。

##### 4.3.1 中国ファンコミュニティにおける3種類インフォーマル学習

8名調査対象の中で、日本人Dさんを除いて、残りの7名の中国人が全員、ジャニーズを通じて日本語を学習したことがあるという。7名中国人の中で、Fさん以外の6人は同担拒否をせずに、情報を獲得、共有するため、ファンコミュニティに参加して、ファン同士と交流する。したがって、中国のジャニーズファンが日本と比べて、情報が不足していて、ファンコミュニティに同担拒否の気持ちもないため、ファンコミュニティへ貢献したいと思う。そして、その貢献を可能とするために日本語能力が必要で、日本語能力を向上させる人が多い

そして、調査対象者のなかで、Eさんを除いて、残りの7人は二次創作をしたことがある。創作物のジャンルは主に動画編集であることがわかった。ジャニーズファンは二次創作の創作意欲が高いと考えられる。

一方、中国ジャニーズファンは、ジャニーズ CP に対する受容度が高い。特に、Bさんは

「同人文化を通じて、同性愛の存在を知った。」、Cさんは「ジャニーズ CP が好きになった後、LGBT へより寛容になった。」と語っており、Hさんは「ジャニーズが腐女子に媚びたことが結構みえると、現実でLGBTの人と会っても平常に受け入れる」と語った。現実でLGBTへの態度について聞いても、確かに中国人の調査対象者ほぼ全員がLGBTに差別せず寛容であることがわかった。

以上のことより、中国のジャニーズファンの中で日本語学習が日常的に行われるだけでなく、二次創作意欲も高く、LGBT への態度も寛容であることが考察できる。この三つの結果から見ると、日本語学習はインフォーマル学習の「生涯を通じた学習」にあたり、高い二次創作意欲はインフォーマル学習の「生涯に渡る学習」にあたるものであり、寛容なLGBTへの態度はインフォーマル学習の「生涯の深い学習」に当てはまると考えられる。

そして、情報獲得、言語学習、それ以外の結果なのか、それらの理由なのかを別にして、ファンコミュニティへの貢献意識が高くなる。なぜなら、そのファンコミュニティへの貢献は情報獲得と言語学習に繋がる可能性があるからだ。もしくはファンコミュニティへの貢献意識が強ければ、情報獲得と言語学習も当然強いと言えるだろう。そして、ファンコミュニティ全体はLGBTへの寛容度が高いと思われ、同時に二次創作の意識が高いともいえる。

#### 4.3.2 社会文化の違いによるインフォーマル学習の逆機能

調査対象者の中で、中国人のCさんとEさんは両親が離婚したので、親の関係は自分にとって悪い例だと語った。そして、自分の現実の恋愛対象について、CさんとEさんは日常で会いやすい男子がいいと語った。この結果から見ると、両親の夫婦関係が悪い人はアイドルからの疑似恋愛が少なく、ジャニーズのような男の人と恋愛しようと思わない。そうではない人たちはジャニーズのような男の人を恋愛対象とする傾向がある。

その傾向が疑似恋愛と似ていると考える。自分の恋愛については高校時代は恋愛禁止の中国の社会状況から疑似恋愛は当然のことであったが、多くの中国ファンは大学以降もそれが続き、当人たちはそのことに無自覚である。この点は、負のインフォーマル学習になっている可能性がある。その理由はLGBTに寛容なインフォーマル学習の影響もあるかもしれない

#### 4.3.3 ファンコミュニティからの離脱に伴うインフォーマル学習の中止

本研究で、スノーボーリング法で調査協力者を集める際、元ジャニーズファン（ジャニーズから卒業したファンのこと）との連絡先を私の調査協力者のほとんどが持っていないことがわかった。卒業したファンは元ファンコミュニティから作った人間関係を維持せず、その中でインフォーマル学習も続かないと考えられる。つまり、卒業はファンコミュニティからの離脱を伴うと思われる。

## 第5章 結論

### 5.1 結論

本研究はジャニーズファンがファンコミュニティにおけるファン活動から何か学んでいる点を着目して、ファン自身のインフォーマル学習意識の形成とインフォーマル学習の成果の表れを明らかにした。その結果、多数の中国人は同担拒否をせず、情報を獲得・共有するため、ファンコミュニティに参加して、ファン同士と交流することが分かった。十分な情報があれば、ファンコミュニティのフォロワー、フリーライダーになりたいとの声が多かったが、情報不足の現実の中、ファンコミュニティで積極的に活動する人が多い。他方、日本のファンコミュニティのセグメント化と違い、中国のジャニーズファンのコミュニティは趣向や立場によって、細かく区分されたコミュニティがないことがわかった。また、中国のジャニーズファンは情報獲得や日本語学習が日常的に進行しており、二次創作の意欲やLGBT への受容度も高い。これはインフォーマル学習の「生涯を通じた学習」、「生涯に渡る学習」、「生涯の深い学習」3種類にそれぞれに当てはまると考えられる。

中国のジャニーズファンは日本のファンと比べて、ジャニーズに関する情報量が圧倒的に不足しているので、同担に寛容であり、ファン同士と同担拒否せずに、協力し合いながらファンコミュニティへ貢献していると考察できる。そして、ファンコミュニティへの貢献意識が強ければ、インフォーマル学習への意識も高くなると考えられる。また、中国のファンは、ジャニーズに似た男性を恋愛対象とすることはあっても、ジャニーズアイドル自身を疑似恋愛の対象とする人はいなかった。このことも同担受容する大きな理由であろう。

### 5.2 今後の課題

本研究では、主にインフォーマル学習の観点からジャニーズファンを調査した。そしてジャニーズファンのファン活動やファンコミュニティで表れたインフォーマル学習の成果を検証することで、日中のジャニーズファンの「同担拒否」に対する態度に差があることが示唆された。しかし、これまではインフォーマル学習の例として日本語学習が強調されてきたが、他の注目できる側面として、ファンコミュニティ内での規範意識を指摘したい。これに関しては、日中のジャニーズファンそれぞれについて今後も調査を続けていきたい。

また日本のジャニーズファンと中国の元ジャニーズファンを調査した結果、彼らの中にもインフォーマル学習が存在することが分かった。そこで今後は、日本のジャニーズファン及び元ジャニーズファンの中に存在するインフォーマル学習の中身をより深く調査、分析することが必要であろう。

加えて、ジャニーズファンの多くは女性であるが、男性ファンも確かに存在する。そこで、

男性ジャニーズファンの中にもインフォーマル学習が存在するのか否か、もし存在した場合、現れたインフォーマル学習の内容は、女性ファンのそれと差があるのかどうか等も、今後の重要な研究課題であると考えられる。

## 謝辞

文末ではありますが、ここまで支えてくださった皆様をはじめ、多くの方々に感謝の心情を述べてさせていただきます。

この研究を遂行するにあたり、終始暖かく見守って、また丁寧に指導してくださった後藤嘉宏先生に深く感謝申し上げます。副指導の照山絢子先生には、研究の進み具合を気にかけていただき、優しい言葉で私を励まして下さいました。本当にありがとうございました。

そして、後藤研の皆様の多大な協力と励ましを得て、論文を完成させることができました。ありがとうございました。

また、調査データの解析にご協力をいただいたばかりでなく、貴重な時間をさいて私の面倒を見てくださった、チューターの土屋深優氏、佐藤いつみ氏に感謝いたします。

最後となりましたが、本研究の趣旨を理解し、長時間にわたるインタビューにも協力して頂いた調査対象者の皆様に、心から感謝いたします。

## 引用・参考文献一覧

- ・ ジャニーズ事務所公式サイト. 2021年1月6日更新.  
<https://www.johnnys-net.jp/page?id=artistAll>, (参照 2021-01-06)
- ・ 村上 麗奈. 【音楽】総称としてのジャニーズと男女アイドルの違い【考察】.  
[https://note.com/rin\\_dorfer\\_music/n/nb31b8b7245fd](https://note.com/rin_dorfer_music/n/nb31b8b7245fd). (参照 2020-12-26)
- ・ 【ジャニーズ】ファンクラブ会員数ランキング 2020年7月版.  
<http://nonta55.com/2020/07/19/jrfcr20207/>. (参照 2020-12-26)
- ・ 新浪微博: 木村拓哉, 嵐, Snow Man  
[https://s.weibo.com/weibo?q=arashi&wvr=6&b=1&sudaref=weibo.com&display=0&retcode=6102&Refer=SWeibo\\_box](https://s.weibo.com/weibo?q=arashi&wvr=6&b=1&sudaref=weibo.com&display=0&retcode=6102&Refer=SWeibo_box). (参照 2020-12-26)
- ・ 臺 純子, 幸田 麻里子, 崔 錦珍. 日本におけるファン文化・ファン行動研究の動向: ファンツーリズムの確立に向けて. 立教大学観光学部紀要. 2016, no. 18, pp. 165-173.  
[https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=11968&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=49](https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=11968&item_no=1&page_id=13&block_id=49), (参照 2020-12-26)
- ・ 魏 然, 陸 一菁. 中国語圏ジャニーズファンの活動及びファンコミュニティの特性. 神戸松蔭女子学院大学研究紀要. 2014, 人間科学部篇, no. 3, pp. 63-79.  
[https://shoin.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=1463&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://shoin.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1463&item_no=1&page_id=13&block_id=21), (参照 2020-12-26)
- ・ 山内 祐平. 教育工学とインフォーマル学習. 日本教育工学論文誌. 2013, vol. 37, no. 3, pp. 187-195.  
<https://doi.org/10.15077/jjet.KJ00008987682>, (参照 2020-12-26)
- ・ 登坂学. 日本型アイドル養成団体の受容・現地化とファンコミュニティのインフォーマル学習的意義について: 上海における参与観察を中心に. 九州保健福祉大学研究紀要. 2019, vol. 20, pp. 45-56.  
[https://phoenix.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=1428&item\\_no=1&page\\_id=4&block\\_id=75](https://phoenix.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1428&item_no=1&page_id=4&block_id=75), (参照 2020-12-26)
- ・ コンビ (こんび) とは【ピクシブ百科事典】 - pixiv  
<https://dic.pixiv.net/a/コンビ>, (参照 2020-12-28)
- ・ 渋谷 英章. 生涯学習研究 e 事典.  
<http://ejiten.javea.or.jp/content7ce6.html?c=TKRZeE1ERXk%3D>, (参照 2020-12-28)
- ・ 社会的学習理論 (モデリング理論) とは? 他者の行動を観察・模倣する学習を具体例で

解説.

<https://theory.work/terms-social-learning-theory/>, (参照 2020-12-31)